

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

A Comparative Analysis of Reference Collections
in University Libraries

三 浦 逸 雄 ・ 戸 田 慎 一
Itsuo Miura *Shin'ichi Toda*

小 田 光 宏 ・ 長 沢 雅 男
Mitsuhiro Oda *Masao Nagasawa*

Résumé

The objectives of this study are to evaluate the characteristics of the reference collections in university libraries and to prepare a list of basic reference books as a tool for reference collection development. For these purposes, three university libraries, the International Christian University Library, the University of Tokyo General Library, and the Keio University Mita Information Center, were selected, and quantitative analyses were made of foreign reference materials in these libraries, as of March 1982.

This paper consists of three parts. In the first part, the reference materials are divided into two categories, non-serials and serials, and the following aspects were examined; type of reference materials; subject fields covered; nationalities of publishers; languages used; dates of publication; and for serial reference materials, beginning and ending dates.

Then, individual titles in the collections were checked against the titles in Sheehy's *Guide to reference books* (9th ed.) to determine the percentage of volumes each library's.

Finally, duplicate titles in the three reference collections were ascertained and analyzed in several aspects. As an appendix, a list of duplicate titles attached, which may be useful for reference librarians to develop reference collections.

Findings of the study are presented in a series of tables and figures, and discussed taking into consideration particular institutional factors of each library.

三浦逸雄：東京大学教育学部助手，東京都文京区本郷7-3-1

Itsuo Miura, Research Assistant, Faculty of Education, University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo.

戸田慎一：東京大学大学院教育学研究科博士課程，東京都文京区本郷7-3-1

Shin'ichi Toda, Ph. D. Course, Graduate School of Education, University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo.

小田光宏：東京大学大学院教育学研究科博士課程，東京都文京区本郷7-3-1

Mitsuhiro Oda, Ph. D. Course, Graduate School of Education, University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo.

長沢雅男：東京大学教育学部教授，東京都文京区本郷7-3-1

Masao Nagasawa, Professor, Faculty of Education, University of Tokyo, 7-3-1, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo.

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

はじめに

I. 調査の対象と方法

- A. 調査対象館
- B. 調査対象コレクション
- C. 単行書と逐次刊行物
- D. 調査単位
- E. データの作成と処理

II. レファレンス・コレクションの比較

- A. 単行書
- B. 逐次刊行物

III. 重複調査

- A. 単行書
- B. 逐次刊行物
- C. 重複タイトルと参考図書の問題書誌における収録率

おわりに

はじめに

今日、大学図書館の参考業務においては、館内外の多種多様な情報源が広く利用されるようになってきている。しかし、最も頻繁に利用される種類の情報源は依然として参考図書であることには変わりない。参考図書は内容が参照しやすいように編集された図書であり、それ自体が情報源であるとともに、しばしば他の情報源への手がかりを与える種類の情報源だからである。したがって、多くの図書館では、これらを一般図書とは別置してレファレンス・コレクションを構築し、その効率的な利用を図ろうとしている。¹⁾

しかし、充実したレファレンス・コレクションを計画的に構築するには、少なくともどのような参考図書を、どの程度集めればよいのか、という疑問に答えることは容易ではない。一般的な問題書誌とか主題文献案内以外には、依拠すべき指針は何もなく、もっぱら図書館員の経験と勘に頼っている現状だからである。レファレンス・コレクションは参考業務における中核的な情報源であり、その質および量が業務内容を大きく左右するだけに、その構築・維持について、さらにその評価法について十分な研究調査が必要なのは自明である。

それにもかかわらず、大学図書館のレファレンス・コレクションに関する研究調査は、これまでのところ、わが国ではもちろん、諸外国においてさえも、その数は少

なく、ほとんど見るべきものはない。²⁾したがって、レファレンス・コレクション構築のための参考図書の収集方針の策定に役立つ調査データを得ることはできない。また、維持すべきコレクションの最適規模についても経験的に概数を示すにとどまっている。³⁾

確かに、大学図書館がそれぞれに置かれている条件が異なるので、コレクションの最適規模について、一般的な指針を明らかにするのは困難であることは十分予想される。例えば、レファレンス・コレクションの収集方針の策定に当たって考慮すべき要素を検討した K. Coleman と P. Dickinson は、その“規模に絶対的な限定を設けるべきではない。一般的要素、カリキュラムの変化、各学問分野の学生数が、コレクションの中での主題領域の相対的な増加率を決める上での指針となる”⁴⁾と述べ、主要要素を例示的に列挙するにとどめている。コレクションの最適規模を考えるに当たっては、このほかに、学部・研究所等の構成、他の利用できる図書館のコレクション、さらに参考図書の出版流通など、さまざまな要素を考慮しなければならないであろう。

ともあれ、参考業務の実態調査⁵⁾でも明らかのように、参考図書の選択は国公私いずれの大学図書館でも、図書館員（特に参考係）に委ねられており、それだけにレファレンス・コレクションの構築は、図書館員の専門知識を駆使し、その主導性を発揮すべき領域である。しかも、資料の価格が高騰しつつある状況にあっては、担

当者による組織的な選択収集の努力がますます重要となろう。その意味でも、選択収集の指針ともなる基本的なレファレンス・コレクションを確定するための調査研究は是非とも行われなければならない。

このような問題関心から、筆者らはこれまで三つの大学図書館のレファレンス・コレクションを対象にして、それぞれに数量的分析を試み、その一部を報告してきた。⁶⁾

今回は、これらのレファレンス・コレクションの規模や特性を把握し、それに基づいて比較検討を試みることにした。合わせて、2館ないし3館で共通に所蔵されている参考図書すなわち重複タイトルの調査も行なったが、これは基本的なレファレンス・コレクションを考えるに当たって、その基礎資料を得ることを意図したものである。

異なるコレクションに共通に所蔵されている参考図書のうちには、利用価値の高い基本的な参考図書が多く含まれているはずである。そのように仮定するならば、それらに基づいて基本的なレファレンス・コレクション構築の指針を求めることができるのではなかろうか。基本的なレファレンス・コレクションのリストができるならば、大学図書館で新たにレファレンス・コレクションを構築しようとする場合に、それを選書リストとして利用し、その収録図書を優先的に選ぶことができる。また基本的な参考図書であるならば、利用する機会が多いはずであり、それらについて精通しておく必要がある。したがって、そのようなリストによって、参考図書の解題をはじめとする図書館学教育における資料関連科目で解説ないし例示すべき参考図書を選定する指針を得ることもできよう。

I. 調査の対象と方法

A. 調査対象館

調査の対象は調査目的によっておのずから規定される。すでに述べたように、今回の調査目的には、複数の大学図書館のコレクションの実態把握と相互比較のほか、基本的なレファレンス・コレクションの確定のための基礎データを求めることが含まれている。したがって、コレクションの規模や内容において著しく見劣りする図書館、あるいは平均的な図書館は、調査の趣旨にそぐわないことになる。コレクション構築の指針となる基本コレクションの基礎リストを得るためには、比較的、古くから参考業務の担当部門を独立させ、複数の専

任担当者を擁し、これまで比較的規模の大きいレファレンス・コレクションを維持してきた図書館を選ばなければならない。このような条件を満たし、しかも実際の調査に協力が得られるかどうかといった条件を考慮に入れて検討した結果、最終的に、国際基督教大学図書館（以下、ICUと略す）、東京大学総合図書館（以下、東大と略す）、慶応義塾大学三田情報センター（以下、慶大と略す）の3館を調査対象とすることに決めた。

改めて指摘するまでもなく、調査の対象として選んだ上記の3大学は、歴史、学部構成、学生数など多くの面でかなりの相違がある。ICUは1949年の創立で、教員数約130名、学生数（大学院生を含む）約2千名の教養学部だけからなる小規模な単科大学である。慶大は創立が1890年と古く、教員数約2千名、学生数約2万5千名の6学部（文、経済、商、法、工、医）からなる総合大学で、三田、日吉、信濃町のキャンパスに分かれている。東大は国立大学の中で最も古い1877年に創立され、教員数約3,800名、学生数約2万人の10学部（法、医、工、文、理、農、経済、教養、教育、薬）と13研究所からなる総合大学で、本郷と駒場が主たるキャンパスである。加えて、これらの大学は図書館の組織や規模についても相当異なっている。ICU図書館は部局図書館をもち、蔵書数25万7千冊（うち洋書12万3千冊）である。慶大研究・教育情報センターは三田、日吉、医学、理工学の四つの情報センターから構成され、蔵書数は総計約168万冊（うち洋書78万7千冊）で、そのうち三田情報センターの蔵書数は112万2千冊（うち洋書79万7千冊）である。東大の図書館組織はICUや慶大とは比較にならぬほど複雑で、総合図書館のほか医、農、経済、教養の四つの学部図書館をはじめとして62部局図書館（室）から東大附属図書館が構成されている。東大附属図書館の蔵書数は512万9千冊（うち洋書236万8千冊）、そのうち総合図書館の蔵書冊数は188万7千冊（うち洋書32万7千冊）である。⁷⁾

このように大学や図書館の組織や規模については顕著な差異が認められる。それにもかかわらず、レファレンス・コレクション、特に今回の調査対象である洋書コレクションをみると、その規模には比較的差がないといってよい。すなわち、今回の調査における調査単位で集計すると、1982年3月末現在における洋書のレファレンス・コレクションの規模は、ICUで3,113点、東大で2,288点、慶大で2,492点になる。ただし、ここで断っておかなければならないことは、後述するように、上記の

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

数字はレファレンス・コレクションとして開架しているものに限った結果である。当然、スペースの面での制約があるから、東大、慶大では稀用のもの、新版に代替されたものは書庫に移されているはずであり、所蔵されている参考図書はかなり膨大な数となろう。しかし、ここで調査対象にしたのはレファレンス・コレクションとして開架されたものであり、経験的に選ばれたものとみなしてよいだろう。

基本的なレファレンス・コレクションの構築のためのデータを求めるには、所蔵されているすべての参考図書を基礎にするよりも参考業務に利用され、経験的に構築維持されてきたコレクションを対象にした方がより適切といえよう。

また、ICU、東大、慶大の3館がともに、人文・社会科学を主たるサービス対象分野としていることも、レファレンス・コレクションの内容にかかわるひとつの選択ポイントであった。

見方を変えれば、大学や図書館の組織や規模が違うことによって、それがレファレンス・コレクションの特性に反映するかどうか、この点を調べるにはかえって好都合であるともいえる。また、違いがあるにもかかわらず、共通に所蔵されているものであるならば、それは基本的な参考図書であるという確率は高いはずである。このように考えて、最終的に、ICU、東大、慶大の3大学を選び、各図書館の協力を得て、調査を実施した。

B. 調査対象コレクション

ICU図書館、東大総合図書館、慶大三田情報センターが、1982年3月末現在までに収集整理した参考図書のうち、今回調査対象にしたのは洋書のみである。

ここでいう参考図書は、各館がそれぞれ参考図書扱いにし、一般図書とは別置しているコレクションに含まれているものに限っている。したがって、一般に参考図書とはいえないもの（例えば、概説書や入門書の類）も若干含まれているし、また逆に、参考図書であっても、書庫に移されたり、一般図書扱いにされたりして、レファレンス・コレクションから外されているものもある。明らかに参考図書として扱うには不適切と思われる若干のものはコレクションに含まれていても、データの作成時点で除外した。レファレンス・コレクション以外の参考図書については、無視しても今回の調査にはほとんど支障がないと判断した。確かに、東大と慶大の場合、スペースの制約により、レファレンス・コレクションを一定

数に維持しなければならず、そのために旧版は新版に、内容の重複するものは新刊にさしかえるなどの処置がなされているので、レファレンス・コレクション以外の参考図書が多数ある。しかし、このことは、既述のように今回の調査にとってはかえって好都合な点である。また、ICUは、戦後の図書館として古いものが少ないために、一般図書に移されているものは少なく、しかも全館開架であることなど、東大、慶大と若干条件は異なるが、選択は慎重に行われているので、比較の上で特に支障はない。

次に、洋書に限定した理由について、ひとこと述べておく必要がある。ひとつのまとまりをもったコレクションであれば、使用言語のいかんを問わず、その全体にわたって調査するのが望ましいことが多い。しかしながら、1館のレファレンス・コレクションの分析だけでなく、複数館のコレクションを比較する立場からすると、和書を調査対象に含めることは必ずしも得策とはいえない。和書については出版情報が比較的豊富で、しかも現物を直接チェックできることも多く、選択が比較的容易なために、各館によって、洋書の場合のように差異が生じることはない。和書の参考図書の場合、主要なものは共通に所蔵されているので、和書を調査対象に加えても、処理点数が増えるだけで、かえってレファレンス・コレクションの特徴はとらえにくくなる。そこで今回は和書を除き、洋書のみを対象とすることにした。

ところで、ひと口に洋書といってもその定義となると意外に難しいものである。一般に、洋書ということばは和漢書と区別して、西洋の書という意味に用いられるが、本調査では原則的に次のように決めることにした。すなわち、本文の使用言語が日本語、中国語、朝鮮語等の東洋諸語以外の言語を洋書とする。したがって、日本および東洋の諸国で刊行された図書であっても、欧米諸語のいずれかで書かれた図書であるならば洋書として扱うことにした。ただし、そのような図書であっても、日本語との対訳辞書（例えば、英和辞書）は洋書とはしない。

C. 単行書と逐次刊行物

調査にさきだち、上述の調査対象を単行書と逐次刊行物とに大別することにした。それは、刊行形式によって、おのずから参考図書としての特徴を異にするので、調査項目によっては、それぞれの特徴に応じて変えた方がより適切な結果が得られると考えたからである。

単行書には、1巻もののほか、複数巻で完結するセッ

トものの出版物を含めている。これらは通常、その冊数は予め決められており、予定の冊数が刊行されることによって完結する。なお、この種の図書であっても、謄写版印刷のもの、49ページ未満の小冊子は除外することにした。

他方、逐次刊行物は、終期を予定しないで継続的に刊行することを意図した分冊形式の出版物であり、各分冊には一連の巻号数や年号等が与えられているものをいう。ただし、単行書との区別に際して、逐次刊行物かどうかははっきりしないものについては、二次資料を参照して判断するとか、所蔵状況を勘案するとかした。

D. 調査単位

単行書に関しては、同一タイトルの書誌的単位をもって調査単位とした。したがって、2冊以上からなる参考図書は、原則として、完結した全巻をもって1点と数えることにした。ただし、続刊中のものであっても調査単位として扱った。

また、多巻もので、全巻の半分以上の巻を欠く場合は、当該の図書は所蔵していないものとみなした。ただし、所蔵している巻のみでも、十分独自に利用できるような種類のものは、その限りではない。なお、補遺版、追録等は本版に含め、独立の調査単位とはしなかった。さらに、同一タイトルの複本については、何点所蔵していようとも、合わせて1点として数えた。

他方、逐次刊行物も、同一タイトルの書誌的単位を調査単位とした。それ故、何巻であろうと1タイトルは1点として数え、巻号等の表示が継続していても、改題されたならば別個のものとして扱うことにした。なお、軽微な改題と見なしたものはその限りではない。ここで注意しておきたいのは、逐次刊行物でその一部が参考室にある場合、そのタイトルの書庫にあるバックナンバーも含めたので、それとの関連で前身誌も調査単位として扱われていることである。

単行書と逐次刊行物に共通することであるが、複製(復刻)版は、原版と同一のものとみなし、複製の際に、改題したもの、増補したもの、部分的な複製にとどまり原版との差異が明瞭なものは、独立の単位として扱った。

E. データの作成と処理

実際の作業にあたっては、単行書と逐次刊行物の刊行形式に応じた調査項目を含む2種類のデータ・シート⁸⁾

を作成し、これに各図書館の閲覧目録カードの記述に基づいて必要なデータを記入した。ただし、目録カードの記述だけでは不十分な場合には、現物を点検するとか各種の二次資料を参照するとかしてデータを修正補足した。

このデータ・シートに基づいて、機械可読ファイルを作製し、各種の集計やリストの編集を行なった。本稿でとりあげるのはその一部分であり、データ・シートの分析項目部分を対象としている。なお、集計・分析には東京大学大型計算機センターの HITAC M-280H/200H を利用した。

II レファレンス・コレクションの比較

I章で述べたような調査対象を設定し、その調査単位を数量的に示したのが第1表である。各図書館の置かれている条件はかなり相違しており、当然、そのような固有の条件は、一般図書コレクションほどではないにしても、こうした数字に少なからず影響を与えていると思われる。それ故、個々の図書館に特有の要素をまったく無視して、コレクションを数量的にとらえ、それらを比較することによって、性急に何らかの評価を下そうとすることは控えるべきである。

第1表 レファレンス・コレクションの規模(点数)

	単行書	逐次刊行物	計
ICU	2,726(87.6%)	387(12.4%)	3,113(100%)
東大	2,073(90.6)	215(9.4)	2,288(100)
慶大	2,235(89.7)	257(10.3)	2,492(100)

図書館にかかわる様々な要素がコレクションの構築・維持にどのように、どの程度影響を与えているかを見極めることは困難であるが、この点をできるだけ考慮しつつ、以下、各図書館のコレクションの特徴を比較検討してみたい。

A. 単行書

1. 参考図書のタイプ

まず、コレクションを参考図書のタイプによって分け、その構成にどのような特徴が見出せるのか。この点を明らかにするために、次のようなタイプ(逐次刊行の参考図書も対象とする)を設定し、これに準拠して、参考図書を個別に点検した上で類別することにした。な

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

お、識別のために特記しないかぎり、これらの定義は極めて常識的になされたものとみなしてよい。

- (1) 抄録 (Abstracts)
逐次刊行物のみ。
- (2) 地図帳 (Atlases)
- (3) 主題文献案内 (Bibliographic guides)
- (4) 書誌 (Bibliographies)
- (5) 人名事典 (Biographical dictionaries)
多数の人物の経歴や業績などを記述・解説したものの。
- (6) カタログ (Catalogs)
商品、備品、器具などの物品を紹介ないしは解説して、一定の体系に従って配列したリスト。
- (7) 年表 (Chronological tables)
- (8) 用語索引 (Concordances)
- (9) 辞書・事典 (Dictionaries)
- (10) 名鑑 (Directories)
- (11) 百科事典 (Encyclopedias)
- (12) 地名事典 (Gazetteers)
- (13) 用語集 (Glossaries)
難解語、古語、特殊用語、専門用語、方言、その他の特定領域の用語を一定の順序 (通常、アルファベット順) に配列したリスト。
- (14) 便覧 (Handbooks)
- (15) 図鑑 (Illustrated books)
- (16) 索引 (Indexes)
特定著作 (単数あるいは複数) の内容索引。記事論文索引は(4)書誌に含める。
- (17) 蔵書目録 (Library catalogs)
- (18) 引用句辞書 (Quotation books)
- (19) レビュー (Reviews)
特定分野における1年間の研究動向全般にわたって、単行書、報告書、雑誌論文等の文献を中心に概観したもの。
- (20) 資料集 (Source books)
参考図書とみなすことのできるものに限定する。
- (21) 統計集 (Statistics)
- (22) 諸表 (Tables)
- (23) シソーラス (Thesauri)
- (24) 旅行案内書 (Travel guides)
- (25) 総合目録 (Union catalogs)
- (26) 年鑑 (Yearbooks)

参考図書といっても、単純に、上記のいずれかのタイ

プに属するものばかりではない。なかには、書誌に人名事典を加えたもの、便覧と用語集からなるものなど、二つ以上のタイプを兼ね備えたものがある。この種の参考図書については、原則として、量的比率の高い方を優先したが、合わせて凡例、序文等により編集の意図も勘案して、いずれかのタイプに類別することにした。また、参考図書ではあるが、上記のいずれのタイプにも類別できないものは「その他」とした。

このような手順にしたがって、タイプ分けを行い、その分布を明らかにしたのが第2表である。これを見ると、3館に共通して、書誌と辞書事典の二つのタイプが、合わせて全体の60%前後を占めており、これらがレファレンス・コレクションの中核を形成していることを示している。

各図書館の特徴をあげると、ICUでは、名鑑および地図帳の比率が、他の2館に比べて高くなっている。東大では蔵書目録が3位に位置しており、その点数はICUの約4倍、慶大の約2倍である。この蔵書目録の大部分は国内の大学図書館で編集された洋書の蔵書目録である。慶大では、書誌の比率が他の2館よりも10%以上も高く、点数においてICUよりも123点、東大より342点も多く、書誌の充実ぶりがうかがわれる。

タイプ別にみたレファレンス・コレクションの特徴を概括するために、第2表に掲げた24のタイプを四つの大きなグループ、すなわち、書誌類 (書誌、主題文献案内、蔵書目録、総合目録)、人名事典類 (人名事典、名鑑)、辞書類 (辞書・事典、百科事典、用語集)、「その他」に大別して、その構成比を示したのが第1図である。この四つのグループでみると、3館とも書誌類と辞書類の二つのグループが圧倒的に多い。特に慶大の場合、書誌類が全体の半分近くを占めているのが注目される。

2. 主題分野

各コレクションの主題面での特徴をとらえるために、日本十進分類法 (NDC) によって粗分類をした。なお、分類は各図書館によって与えられた番号に準拠することを原則としたが、東大は独自の分類表であるし、また各館ごとに分類方針に相違が見られるために、一貫した方針のもとに修正を加えたものがある。

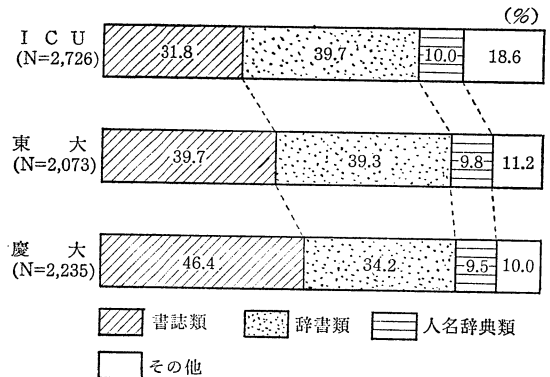
第3表はNDC主類レベルにおける主題分布を示したものである。この表によると、最も点数の多い分野は、ICUと東大では800 (言語) であるが、東大の場合、1位から3位まではほとんど差がみられない。慶大では

第2表 参考図書のタイプ (単行書)

タイプ	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
辞書・事典	1,002	36.8	741	35.7	707	31.6
書 誌	702	25.8	483	23.3	825	36.9
名 鑑	145	5.3	73	3.5	49	2.2
便 覧	134	4.9	92	4.4	98	4.4
人名事典	128	4.7	131	6.3	163	7.3
地 図 帳	105	3.9	49	2.4	17	0.8
主題文献案内	88	3.2	88	4.2	89	4.0
蔵書目録	57	2.1	212	10.2	92	4.4
用語索引	55	2.0	6	0.3	7	0.3
用語集	47	1.7	19	0.9	11	0.5
旅行案内書	32	1.2	24	1.2	23	1.0
百科事典	32	1.2	54	2.6	46	2.1
引用句辞書	27	1.0	9	0.4	19	0.9
統計集	22	0.8	5	0.2	7	0.3
諸 表	22	0.8	2	0.1	0	0.0
索 引	20	0.7	10	0.5	21	0.9
総合目録	19	0.7	39	1.9	32	1.4
資料集	18	0.7	4	0.2	0	0.0
地名事典	17	0.6	9	0.4	11	0.5
図 鑑	15	0.6	9	0.4	1	0.0
シソーラス	14	0.5	2	0.1	1	0.0
年 表	11	0.4	7	0.3	7	0.3
カタログ	8	0.3	1	0.0	0	0.0
その他	6	0.2	4	0.2	11	0.5
計	2,726	100.0	2,073	100.0	2,235	100.0

000 (総記) が最も多くなっているが、これも2位の300 (社会科学)とそれほど大きな差はない。全体としてみると、000, 200 (歴史), 300, 800の四つの分野が他に比べて高い比率を示している。

反対に、点数の最も少ない分野は、I C Uでは500(技



第1図 参考図書のタイプ (単行書) —グループ別

第3表 N D C主類による分類 (単行書)

N D C	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
0 0 0 (総記)	300	11.0	405	19.5	489	21.9
1 0 0 (哲学)	245	9.0	94	4.5	102	4.6
2 0 0 (歴史)	486	17.8	406	19.6	418	18.7
3 0 0 (社会科学)	484	17.7	259	12.5	454	20.3
4 0 0 (自然科学)	141	5.2	173	8.3	17	0.8
5 0 0 (技術)	22	0.8	74	3.6	28	1.3
6 0 0 (産業)	31	1.1	26	1.3	30	1.2
7 0 0 (芸術)	128	4.7	73	3.5	100	4.5
8 0 0 (言語)	612	22.5	417	20.1	331	14.8
9 0 0 (文学)	277	10.2	146	7.0	266	11.9
計	2,726	100.0	2,073	100.0	2,235	100.0

術), 東大では600 (産業), 慶大では400 (自然科学)とそれぞれ異なっている。しかし、これらの3分野は3館とも共通して比率が低くなっている。特に、慶大の400は、I C Uや東大に比べて極端に点数が少ない。

この分類をさらに主欄まで細分した結果から、上位の7分野だけをとり出したのが第4表である。これによれば、順位こそ違うものの、020 (図書, 書誌学), 290 (地理, 地誌, 紀行), 830 (英語)の3分野が3館にそれぞれ認められる。これらの3分野を除くと、各図書館の特徴といったものがある程度読み取れるのではなかろうか。

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

第4表 NDC主網による分類（単行書）一上位7分野

I C U		東 大		慶 大	
N D C	%	N D C	%	N D C	%
830 (英 語)	6.7	020 (図 書・書誌学)	12.1	020 (図 書・書誌学)	13.8
370 (教 育)	5.4	290 (地理・地誌・紀行)	5.9	930 (英 米 文 学)	4.8
190 (キリスト教)	5.1	830 (英 語)	4.2	330 (経 済)	4.7
220 (歴 史・アジア)	4.7	280 (伝 記)	4.1	280 (伝 記)	3.9
930 (英 米 文 学)	4.4	820 (中 国 語)	4.0	230 (ヨ ー ロ ッ プ 史 西 洋 史)	3.2
020 (図 書・書誌学)	4.3	840 (ド イ ツ 語)	3.2	290 (地理・地誌・紀行)	3.2
290 (地 理)	4.2	400 (自 然 科 学)	3.1	830 (英 語)	3.2

ICUでは370(教育), 190(キリスト教), 220(歴史・アジア)の3分野, 慶大では330(経済)と230(ヨーロッパ史, 西洋史)の2分野の比率が高い。東大の場合は820(中国語), 840(ドイツ語)といった言語の分野の比率が高いが, ICUや慶大のような主題領域の比率はさほど高くない。このことは, 東大の場合, 他の2館と違って, 部局図書館室がそれぞれの主題分野の参考図書を重点的に収集しており, 総合図書館はその収集に重点を置かなくてもすむためと考えられる。

次に, 主類をより大きくまとめた場合の各コレクションの主題構成はどうであろうか。便宜上, 主類を四つの大きな分野, すなわち人文科学(100, 200, 700, 800, 900を含む), 社会科学(300, 670(商業), 680(交通), 690(通信)を含む), 科学技術(400, 500, および600の残りをを含む), 「その他」(000を含む)にまとめ,

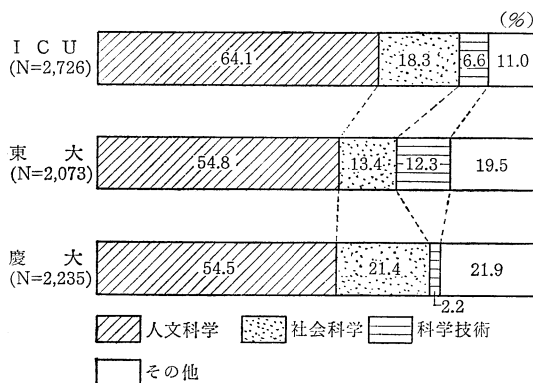
それぞれの比率を示したのが第2図である。この図をみると, 3館ともに, 人文科学が全体の半分以上を占めていることがわかる。特に, ICUでは, 人文科学の比率が他の2館より10%程度高くなっている。東大では人文科学を除いた三つの分野の比率が他の2館ほどかけ離れていない。慶大で特に目につくのは, 科学技術の比率が低いことである。これは調査対象とした図書館が位置する三田キャンパスが人文・社会科学系の学部のみから構成されていることの反映とみて差し支えなからう。

以上, 述べてきたようなレファレンス・コレクションの主題面での特徴が, 一般図書のコレクションについてもあてはまるかどうかたいへん興味のあるところである。この点については, 既に発表したICUの調査結果のなかで若干触れているが⁹⁾, 東大と慶大については, 今回の検討から省いている。

3. 出版国

参考図書の出版国の面で, 各コレクションにどのような特徴がみられるだろうか。この点を調べるために, 閲覧目録カードに記載されている出版地の属する国を現在の版図で分類し, それぞれの出版国とした。ただし, 目録カードに出版地が二か所以上示されているときは, 先に記載されている出版国を一つ選ぶことにした。また, 多巻もので出版地に変遷がみられる場合は, 最新刊行の巻の出版地が属する国を出版国とみなした。さらに, 復刻版は原本の出版地によることにした。

この結果得られた出版国の分布が第5表である。3館ともアメリカ合衆国が1位を占めており, その比率はICUと慶大では40%を越え, 東大では30%に若干及ばないが, いずれにしても, アメリカ合衆国の出版物の多さ



第2図 主題分野（単行書）

第5表 出版 国* (単行書)

国 名	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
日 本	176	6.5	305	14.8	74	3.3
韓 国	9	0.3	9	0.4	1	0.0
中 国	14	0.5	9	0.4	10	0.4
香 港	14	0.5	4	0.2	6	0.3
イ ン ド	29	1.1	13	0.6	7	0.3
そ の 他	35	1.4	19	0.9	16	0.7
アジア小計	292	10.7	359	17.4	115	5.2
アメリカ合衆国	1,280	47.1	603	29.3	975	43.8
カナダ	22	0.8	21	1.0	15	0.7
北アメリカ小計	1,302	47.9	624	30.3	990	44.5
イギリス	499	18.4	395	19.2	479	21.5
西ドイツ	194	7.1	156	7.6	188	8.4
ス イ ス	26	1.0	12	0.6	36	1.6
フランス	208	7.7	124	6.0	195	8.8
ベルギー	8	0.3	4	0.2	7	0.3
オランダ	49	1.8	40	1.9	28	1.3
スペイン	5	0.2	11	0.5	5	0.2
イタリア	17	0.6	35	1.7	14	0.6
そ の 他	10	0.4	21	1.0	8	0.4
西ヨーロッパ小計	1,016	37.4	798	38.7	960	43.1
北ヨーロッパ	15	0.6	26	1.3	17	0.8
ソ 連	12	0.4	166	8.1	77	3.5
東ドイツ	52	1.9	36	1.7	29	1.3
そ の 他	5	0.2	31	1.5	18	0.8
東ヨーロッパ・ソ連小計	69	2.5	233	11.3	124	5.5
オセアニア	20	0.7	5	0.2	7	0.3
ラテン・アメリカ	0	0.0	9	0.4	5	0.2
アフリカ	4	0.1	6	0.3	8	0.4
総 計	2,718	100.0	2,060	100.0	2,226	100.0

* 出版国不明 (I C U 8点, 東大23点, 慶大9点) を除く

を示している。イギリスがアメリカに次ぐのも3館に共通しているが、3, 4位については相違が認められる。すなわち、I C Uと慶大ではフランス、西ドイツが3, 4位を占めているが、東大では日本、ソ連が3, 4位である。東大コレクションの15%近くを占める日本の出版物の大部分は、前述のように大学図書館が編集した洋書の蔵書目録である。この他に注目すべき点は、東大がソ連・東欧圏の出版物をかなり多く収集していること、逆にI C Uは東大や慶大に比べてかなり少ないことである。また、北ヨーロッパ、オセアニア、ラテン・アメリカ、アフリカの諸国の出版物が全体的に少ないが、これは各図書館が積極的に収集していないということではなく、もともとそれらの国々における参考図書の刊行点数が少ないこと、利用者の需要が低いことなどに起因するものと考えられる。

地域別にみても、やはり北アメリカと西ヨーロッパが断然多く、両者を合わせると、I C Uで85.3%、東大で69%、慶大で87.6%になる。全般的にみて、東大のコレクションは、他の2館よりも出版国が分散しているといえよう。

4. 使用言語

使用言語は、出版国によって、ある程度決まってくるといえるが、参考図書の場合は必ずしも出版国の国語と一致しないもの、2か国語以上を使用しているものなどが少なくないので、使用言語について検討してみることにした。なお、使用言語の類別に際しては、本文、序文、凡例、目次、索引等を点検することによって判定したが、その結果、言語が2種類以上使用されている場合は、その言語の種類を問わず、すべて「2か国語以上」として扱うことにした。こうした処理によって得られた使用言語の分布が第6表である。この表では、書誌類に属する参考図書は除くことにした。この種の参考図書は主として書誌的記述からなるもので、言語区分をしてもあまり意味がないからである。

この表によれば、やはり英語のものが圧倒的に多く、I C Uと慶大では60%以上、東大では50%以上を占めている。それぞれの図書館で順位は入れ替わるが、ドイツ語とフランス語のものが英語のものに次いで多い。しかし、その点数はかなり少ない。ただし、東大については、ロシア語のものが僅差ながらフランス語のものを押えて3位に入っている。I C Uでは、ギリシャ語のものを26点ほど所蔵していることが、慶大の3点、東大の1点に比べて特徴的である。これは、I C Uが西洋古典に

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

第6表 使用言語* (単行書)

言語	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
英語	1,221	63.3	686	51.6	766	60.5
ドイツ語	135	7.0	138	10.4	120	9.5
フランス語	136	7.1	76	5.7	114	9.0
ギリシャ語	26	1.3	0	0.0	3	0.2
スペイン語	7	0.4	15	1.1	7	0.6
ロシア語	6	0.3	83	6.2	50	3.9
ラテン語	3	0.2	3	0.2	0	0.0
イタリア語	1	0.1	29	2.2	9	0.7
その他	12	0.6	30	2.3	9	0.7
2か国語以上	381	19.8	269	20.2	189	14.9
計	1,928	100.0	1,329	100.0	1,267	100.0

* 書誌類を除く。

力を入れていることの反映かもしれない。2か国語以上のものが各館ともかなりの比率を占めているが、その大部分は言語辞書である。

5. 刊年

参考図書の情報内容の新しさは、その刊行年の新しさと関係があるので、コレクションの刊年分布を調査することにした。刊年調査に当たっては、同一の版次で、刊年が二つ以上ある場合は初刷りの年を採り、単なる複製ないし複製版の場合には原本の刊年を採ることにした。また、2年以上にわたって刊行された多巻もの場合には、最初に刊行された巻の刊年を採用した。

以上の方針に基づいて集計し、10年区分の刊年分布を示したのが第7表である。これによると、ICUと東大では1950年以降に刊行されたものが83.1%と87.0%、慶大では1960年以降に刊行されたものが81.0%を占めている。さらに、1970年以降に刊行されたものの比率をみると、ICU31.3%、東大41.8%、慶大57.8%であった。

次に、刊年の分布を1年単位で算出してみた。ICUでは、1950年以降の各年の比率は、1965年の3.3%(95点)を最高に2.0%から3.5%の範囲にあり、東大では、1960年以降、2~5%の範囲にあって、特に、1975年から1980年にかけては1979年の5%(102点)を最高に毎年3.5%

第7表 刊年* (単行書)

年代	I C U		東 大		慶 大	
	点数	累積%	点数	累積%	点数	累積%
1980	54	2.0	117	5.7	166	7.4
1970	790	31.3	738	41.8	1,124	57.8
1960	778	60.2	645	73.3	517	81.0
1950	617	83.1	281	87.0	200	89.9
1940	145	88.5	50	89.4	41	91.8
1930	95	92.0	49	91.8	49	94.0
1920	57	94.1	53	94.4	38	95.7
1910	41	95.7	27	95.7	16	96.4
1900	34	96.9	28	97.1	19	97.2
1890	27	97.9	15	97.9	16	97.9
1880	21	98.7	19	98.8	11	98.4
1870	8	99.0	10	99.3	8	98.8
1860	7	99.3	4	99.5	6	99.1
1850	4	99.4	2	99.6	6	99.3
1840	4	99.6	4	99.8	4	99.5
1830	5	99.7	2	99.9	3	99.6
1829年以前	7	100.0	3	100.0	8	100.0
計	2,694	100.0	2,047	100.0	2,232	100.0

* 刊年不明 (ICU32点, 東大26点, 慶大3点) を除く

以上を維持している。慶大では、1964年以降、毎年2.5%以上を保ち、1975年から80年にかけては1978年の7.4%(166点)を最高に毎年5%以上の比率を示している。

これまでみてきたところによれば、慶大のコレクションはICUや東大よりも全体的に新しいといえるだろう。しかし、だからといって、慶大のレファレンス・コレクションの質がICUや東大のそれよりもすぐれているといった評価につながるものではない。

因みに、コレクション中の最も刊年の古いタイトルをあげると、ICUでは1595年刊の *Dictionarium latino lusitanicum*、東大と慶大では1732-50年刊の *Grosses Vollständiges Universal-Lexikon* であり、いずれも複製版である。他にも古い刊年のものが見られるが、それらの多くは複製版か復刻版である。

B. 逐次刊行物

1. 参考図書のタイプ

逐次刊行物として区別された参考図書をタイプ別に分けて、その点数を求めたのが第8表である。この表を単行書の第1表とつき合わせてみると、地図帳をはじめ10種ほどのものが欠けており、逆に、年鑑、抄録、レビューの3種が加わっている。

このことは、逐次刊行の形態をとる参考図書が、データや情報の追加・訂正を絶えず必要とするタイプに限定されてくることを意味する。この点は、書誌、年鑑、名鑑、統計集、抄録といったタイプが上位を占めていることによっても裏づけられる。

第8表 参考図書のタイプ (逐次刊行物)

タイプ	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
書 誌	135	34.9	83	38.6	155	60.3
年 鑑	100	25.8	27	12.6	27	10.5
名 鑑	57	14.7	19	8.8	13	5.1
統 計 集	33	8.5	12	5.6	5	1.9
人名事典	20	5.2	25	11.6	18	7.0
抄 録	17	4.4	1	0.5	17	6.6
便 覧	9	2.3	7	3.3	6	2.3
蔵書目録	6	1.6	1	0.5	8	3.1
カタログ	4	1.0	0	0.0	0	0.0
諸 表	1	0.3	0	0.0	0	0.0
辞書・事典	1	0.3	1	0.5	1	0.4
索引	1	0.3	0	0.0	1	0.4
シソーラス	1	0.3	0	0.0	1	0.4
レビュー	1	0.3	35	16.3	0	0.0
総合目録	0	0.0	2	0.9	1	0.4
主題文献案内	0	0.0	1	0.5	2	0.8
年 表	0	0.0	0	0.0	1	0.4
そ の 他	1	0.3	0	0.0	1	0.4
計	387	100.0	215	100.0	257	100.0

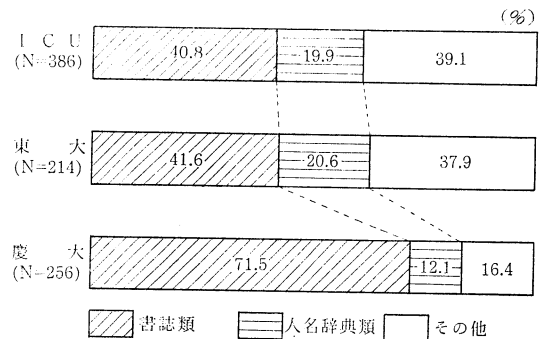
この種の参考図書についても、各図書館の特徴を拾いあげてみると、まずはじめに慶大で書誌の比率が60%強を占めていることが目につく。単行書も合わせて考えると、慶大コレクションの特徴のひとつは書誌類にあるといえそうである。ICUでは年鑑の点数が東大や慶大の4倍も多いが、これには書庫がないために刊行中止になった年鑑や購入中止の年鑑も含まれている。東大ではレビューを35点ほど所蔵しているのに対し、ICUが1点、慶大がゼロというのは、レビューを参考図書扱いにしていけないからである。

次に、単行書と同様、第8表にあげた17のタイプを書誌類、人名事典類、辞書類、「その他」の四つのグループにまとめることにした。ただし、辞書類に属するものは3館とも1点だけであり、これを除いたために、結果的には三つのグループとなった。これらの構成比を示したのが第3図である。この図によると、書誌類の比率が3館とも最も高く、とりわけ慶大の場合、かなりの高率であり、単行書の場合よりも一層書誌類に集中していることがわかる。また、「その他」の比率が、単行書に比べて、各館一様に高いことも逐次刊行物の特徴である。

2. 主題分野

NDC主類により主題構成をみたのが第9表である。この表から3館に共通しているのは、000(総記)と300(社会科学)が他の主類よりかなり高い比率を示していること、単行書に比べてもこの2分野への集中度が高いことである。その反面、700(芸術)、800(言語)、900(文学)の比率は単行書より著しく低くなっている。

さらに、NDC主欄レベルまで下げて、主題面での特徴を検討した。そこで得られた結果から、各館のレファ



* 辞書類 (ICU, 東大, 慶大各1点) を除く

第3図 参考図書のタイプ* (逐次刊行物)

—グループ別

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

レファレンス・コレクション全体に占める比率が5%以上になる分野を選び、比率の高い順に列挙したのが第10表である。これによると、各館について、050（逐次刊行物）、020（図書、書誌学）、370（教育）があがっており、かなりの共通性が認められる。特に、教育分野に逐次刊行形態の参考図書が多いことは注目に値する。

単行書と同様、NDC主類を四つの大きな主題分野にまとめ、それぞれの比率を出したのが第4図である。この図から読みとれる逐次刊行物の特徴は、単行書と比べて、人文科学の比率が半分以下になっているのに対し、社会科学の比率が10~20%高くなっていることである。科学技術は、人文科学や社会科学よりも新しいデータや

情報を必要とする分野であるが、逐次刊行物の比率にそのような特徴が表われていないのは、今回の調査対象館が主として人文・社会科学をサービス対象分野にしている図書館だからであろう。

また、「その他」の比率も単行書と比べて2倍から3倍高いが、これは全分野にわたる一般的な性格の年鑑や書誌が多いことによる。

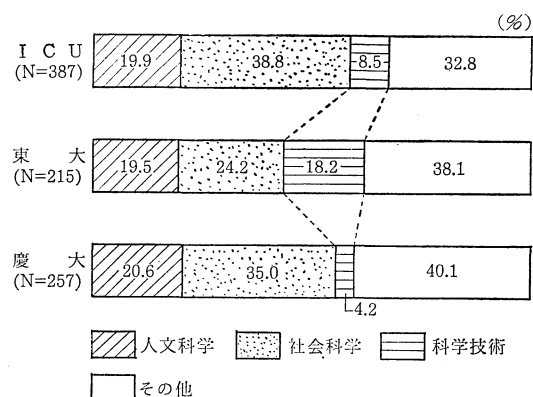
3. 出版国

第11表の出版国分布をみると、3館ともアメリカ合衆国への集中度が単行書よりも一層顕著になっており、各館の比率は全体の半分に近い。アメリカに次ぐのがイギリスであるが、両者の差はかなり開いている。

出版国を地域別にまとめてみると、北アメリカと西ヨーロッパの比率が断然高く、この2地域を合わせると、ICUで79.2%、東大で79.5%、慶大で88%に達する。この他、地域別で注目されるのは、ICUコレクションにおいてアジア諸国のものが多いことである。

第9表 NDC主類による分類（逐次刊行物）

NDC	ICU		東大		慶大	
	点数	%	点数	%	点数	%
000	127	32.8	82	38.1	103	40.1
100	25	6.5	4	1.9	4	1.6
200	27	7.0	28	13.0	33	12.8
300	150	38.8	51	23.7	90	35.0
400	19	4.9	34	15.8	3	1.2
500	14	3.6	5	2.3	8	3.1
600	0	0.0	1	0.5	0	0.0
700	9	2.3	3	1.4	1	0.4
800	8	2.1	4	1.9	6	2.3
900	8	2.1	3	1.4	9	3.5
計	387	100.0	215	100.0	257	100.0



第4図 主題分野（逐次刊行物）

第10表 NDC主綱による分類（逐次刊行物）—5%以上の分野

ICU		東大		慶大	
NDC	%	NDC	%	NDC	%
050 (逐次刊行物)	15.5	050 (逐次刊行物)	15.3	020 (図書・書誌学)	21.4
370 (教育)	15.2	020 (図書・書誌学)	14.4	050 (逐次刊行物)	10.9
020 (図書・書誌学)	10.1	280 (伝記)	8.8	370 (教育)	9.3
310 (政治)	5.9	370 (教育)	8.4	280 (伝記)	7.4
		060 (学会・団体・研究調査機関)	5.1	330 (経済)	5.1

第11表 出版 国 (逐次刊行物)

国 名	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
日 本	26	6.7	11	5.1	7	2.7
韓 国	0	0.0	1	0.5	0	0.0
中 国	1	0.3	0	0.0	0	0.0
香 港	3	0.8	1	0.5	0	0.0
イ ン ド	8	2.1	1	0.5	2	0.8
そ の 他	28	6.8	6	2.8	3	1.2
アジア小計	64	16.7	20	9.4	12	4.7
アメリカ合衆国	185	47.9	98	45.6	127	49.4
カ ナ ダ	9	2.3	7	3.3	3	1.2
北アメリカ小計	194	50.2	105	48.9	130	50.6
イギリス	48	12.4	34	15.8	39	15.2
西ドイツ	17	4.4	12	5.6	26	10.1
ス イ ス	3	0.8	1	0.5	2	0.8
フランス	19	4.9	11	5.1	19	7.4
ベルギー	2	0.5	2	0.9	3	1.2
オランダ	4	1.0	2	0.9	4	1.6
スペイン	1	0.3	0	0.0	1	0.4
イタリア	13	3.4	2	0.9	2	0.8
そ の 他	5	1.3	2	0.9	0	0.0
西ヨーロッパ小計	112	29.0	66	30.6	96	37.4
北ヨーロッパ	2	0.5	3	1.4	3	1.2
ソ 連	0	0.0	10	4.7	5	1.9
東ドイツ	7	1.8	4	1.7	8	3.1
そ の 他	4	1.0	1	0.5	0	0.0
東ヨーロッパ・ソ連小計	11	2.8	15	7.7	13	5.1
オセアニア	7	1.8	3	1.4	3	1.2
ラテン・アメリカ	1	0.3	2	0.9	0	0.0
アフリカ	0	0.0	1	0.5	0	0.0
総 計	386	100.0	215	100.0	257	100.0

4. 使用言語

書誌類を除いて、各館の使用言語の分布を示したのが第12表である。この表から、逐次刊行物では、単行書よりも一段と英語に集中していることが明らかである。なお、言語の種類が単行書よりも減少しているが、その理由は明らかにタイトル数の差に求められる。

5. 創・終刊年

逐次刊行の参考図書について、創刊年および終刊年を *Ulrich's international periodicals directory* をはじめとするいくつかの二次資料を用いて、あるいは直接現物に当たって調査した。それでも創刊年や終刊年が不明であったり、あるいは続刊中かどうかを確認できなかったりしたタイトルが少なくない。

まず最初に、10年単位で創刊年の分布をみたのが第13表である。これによれば、1940年以降に創刊されたものは、I C Uで75.6%、東大で81.6%、慶大で74.5%といずれも70%以上である。

因みに、各館のコレクションにおいて創刊年の最も古いタイトルをあげると、I C Uでは1809年創刊の *Official congressional directory*、東大では1846年創刊の *Newspaper press directory*、慶大では1761年創刊の *The annual register* である。

次に、調査時点での刊行状況を調べるために、終刊のものと同刊中のものとに大別して、その比率を求めた。それが第5図である。I C Uと東大では終刊になったのか、依然として続刊中なのか不明のものが多くあったので、比較しにくい。東大ではI C Uや慶大に比べて、終刊タイトルの比率が明らかに低くなっている。これ

第12表 使用言語* (逐次刊行物)

言 語 名	I C U		東 大		慶 大	
	点数	%	点数	%	点数	%
英 語	202	82.4	107	83.6	72	78.3
フランス語	9	3.7	2	1.6	4	4.3
ドイツ語	7	2.9	8	6.3	7	7.6
スペイン語	1	0.4	0	0.0	1	1.1
ロシア語	0	0.0	3	2.3	2	2.2
2か国語以上	26	10.6	8	6.3	6	6.5
計	245	100.0	128	100.0	92	100.0

* 書誌類を除く。

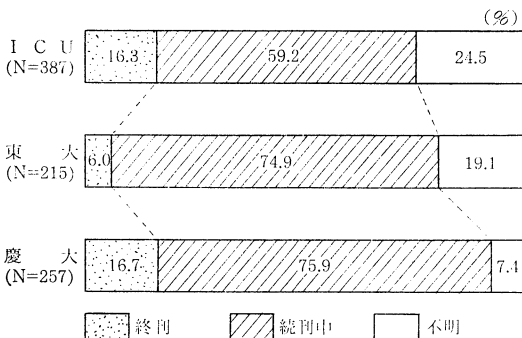
大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

第13表 創刊年* (逐次刊行物)

年代	I C U		東大		慶大	
	点数	%	点数	%	点数	%
1850年代以前	2	0.6	2	1.1	4	1.7
1860	2	0.6	2	1.1	3	1.2
1870	4	1.3	1	0.6	2	0.8
1880	2	0.6	0	0.0	4	1.7
1890	6	1.9	3	1.7	4	1.7
1900	7	2.3	5	2.9	5	2.1
1910	6	1.9	2	1.1	8	3.3
1920	20	6.5	7	4.0	11	4.6
1930	26	8.4	10	5.7	19	7.9
1940	44	14.2	12	6.9	19	7.9
1950	82	26.5	36	20.7	48	19.9
1960	68	22.0	54	31.0	54	22.4
1970	40	12.9	39	22.4	57	23.7
1980	0	0.0	1	0.6	3	1.2
計	309	100.0	174	100.0	241	100.0

* 創刊年不明 (ICU78点, 東大41点, 慶大16点) を除く

は、東大が終刊になったタイトルをレファレンス・コレクションから外し、書庫に移す方針をとっているためであろう。



第5図 終刊・続刊 (逐次刊行物)

C. SHEEHY 収録の有無

参考図書の代表的な解題書誌として知られているE. P. Sheehy 編 *Guide to reference books* (9th ed. A. L. A., 1976. 以下, Sheehy と略す) には、各主題分野の主要な参考図書がほぼ網羅されているとみてよいであろう。そこで、この Sheehy と各図書館の所蔵タイトルを照合することによって、コレクションを評価するためのひとつの手がかりが得られるはずである。

調査にあたっては、各館の所蔵タイトルを1点1点 Sheehy と照合したが、一致していると判断したタイトルについては、さらに、それが同版、旧版、新版のいずれであるかを調べた。厳密に言えば、同版のもののみが Sheehy 収録タイトルと一致したことになる。しかしながら、同版よりも新版の方がより適切であるのはいうまでもない。また、旧版であっても利用者の要求を十分に満たせるタイトルも多くある。このような理由から、Sheehy 収録タイトルの旧版も新版も Sheehy に収録されているものとみなした。

このような処理を通して、Sheehy 収録タイトルの各図書館における所蔵点数 (単行書と逐次刊行物を含む) を Sheehy の分類別に示したのが第14表である。この表から、各館のコレクションにみられる主要な特徴をいくつか指摘できる。まず、ICUでは、Sheehy 収録タイトルを所蔵している比率が最も高い分野は、CA (Social Sciences: General Works) で約30%を占め、この他に、20%台の分野として、AB (Librarianship and Library Resources), AC (Encyclopedias), AD (Language Dictionaries), BA (Philosophy), CB (Education), CE (Mythology) の五つがあげられる。

東大の場合は、ICUと同じくCAの比率が最も高く36.5%であるが、この他に20%以上の分野はACとADの二つしかなく、ICUより少ない。また、慶大の場合もICUと東大と同様にCAの比率が最も高く42.7%で、3館中で最も高率である。慶大でCA以外に20%を越す分野を探すと、ACとDE (Asia) の二つにとどまる。このような結果から、3館に共通して所蔵タイトルと Sheehy タイトルの所蔵率が高いのは、百科事典、言語辞書、および社会科学一般の参考図書であることが分かった。

他方、Sheehy 収録タイトルを1点も所蔵していない分野を挙げると、ICUではDF (Australia and New Zealand), DH (Arctic and Antarctic), DB (Astronomy) の3分野、東大ではBF (Applied Arts), DF,

第14表 SHEEHY 収録タイトルの所蔵率
(単行書・逐次刊行物)

分類	I C U			東 大		慶 大	
	点数 (A)	点数 (B)	B/A× 100%	点数 (C)	C/A× 100%	点数 (D)	D/A× 100%
AA	945	91	9.6	70	7.4	121	12.8
AB	215	48	22.3	12	5.6	26	12.1
AC	89	22	24.7	27	30.3	35	39.3
AD	731	203	27.8	165	22.6	119	16.3
AE	232	25	10.8	23	9.9	32	13.8
AF	93	3	3.2	2	2.2	10	10.8
AG	124	9	2.6	23	18.5	18	14.5
AH	65	7	10.8	5	7.7	11	16.9
AJ	310	60	19.4	60	19.4	58	18.7
AK	138	4	2.9	8	5.8	2	1.4
小計	2,942	472	16.0	395	13.4	432	14.7
BA	93	20	21.5	14	15.1	19	20.8
BB	408	73	17.9	25	6.1	22	5.4
BC	133	21	15.8	4	3.0	8	6.0
BD	1,102	133	12.1	67	6.1	120	10.9
BE	245	23	9.4	15	6.1	13	5.3
BF	130	1	0.8	0	0.0	0	0.0
BG	149	6	4.0	9	6.0	7	4.7
BH	199	19	9.5	18	9.0	11	5.5
小計	2,459	296	12.0	152	6.2	200	8.1
CA	96	28	29.2	35	36.5	40	41.7
CB	249	67	26.9	20	8.0	29	11.6
CC	170	18	10.6	5	2.9	16	9.4
CD	75	13	17.3	2	2.7	3	4.0
CE	20	4	20.0	1	5.0	0	0.0
CF	63	6	9.5	3	4.8	5	7.9
CG	244	24	9.8	23	9.4	20	8.2
CH	509	37	7.3	23	4.5	51	10.0
CJ	313	51	16.3	30	9.6	32	10.2

CK	252	34	13.5	19	7.5	42	16.7
CL	272	21	7.7	25	9.2	13	4.8
小計	2,263	303	13.4	186	8.2	251	11.1
DA	152	27	17.8	21	13.8	30	19.7
DB	263	19	7.2	16	6.1	20	7.6
DC	386	11	2.8	25	6.5	35	9.1
DD	112	1	0.9	8	7.1	10	8.9
DE	199	56	28.1	19	4.8	49	24.6
DF	24	0	0.0	0	0.0	1	4.2
DG	29	7	24.1	2	6.9	2	6.9
DH	11	0	0.0	0	0.0	0	0.0
小計	1,176	121	10.3	91	7.7	147	12.5
EA	262	35	13.4	47	17.9	12	4.6
EB	55	0	0.0	3	5.5	0	0.0
EC	201	10	5.0	13	6.5	1	0.5
ED	103	16	15.5	9	8.7	0	0.0
EE	204	1	0.5	7	3.4	0	0.0
EF	66	7	10.6	0	0.0	0	0.0
EG	51	6	11.8	2	3.9	0	0.0
EH	79	14	17.7	8	10.1	4	5.1
EJ	349	6	1.7	16	4.6	7	2.0
EK	234	4	1.7	5	1.1	0	0.0
EL	94	1	1.1	1	1.1	3	3.2
小計	1,698	101	5.9	111	6.5	27	1.6
総計	10,538	1,292	12.3	935	8.9	1,057	10.0

DH, EF (Mathematics) の4分野、慶大では、BF, CE(Mythology), DH, EB, ED(Chemistry), EE(Earth Sciences), EF, EG (Physics) の8分野である。上にあげた分野を含め(ただし、CEは除く)、大体において所蔵率の低い分野は3館とも共通している。

これまでみてきた分野を上位分野である Sheehy の主分類、すなわち A (General Reference Works), B (Humanities), C (Social Sciences), D (History and Area Studies), E (Pure and Applied Sciences) に

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

まとめて、それぞれの所蔵率を調べてみた。その結果、3館ともAの比率が最も高いが、それでも10%台であり、他の四つの分野とそれほど差はない。比率の一番低い分野には相違がみられ、ICUと慶大がE、東大がCである。AからEまでの五つの分野を通じて、Dを除く四つの分野のいずれについても、ICUの比率が最も高く、次に慶大が続き、東大が最も低い。

最後に、各館のレファレンス・コレクション全体（単行書と逐次刊行物を含む）にSheehy収録タイトルがどのくらい含まれているかを調べてみた。ただし、ここで対象としたコレクションは、1973年までに刊行されたものに限定している。なぜこのような限定をしたかという点、Sheehyは、1974年に刊行されたものも若干含むとはいえ、1973年までに刊行されたものを主たる収録対象にしているからである。

第6図によれば、コレクション中に占めるSheehy収録タイトルの比率は、高い順にあげると慶大、東大、ICUになる。

以上、いくつかの側面から検討してきたSheehyとの照合は、あくまでもコレクション評価のためのひとつの目安にすぎず、その所蔵率の高低によって直ちにコレクションの質を評価することはできない。Sheehyは確かに基本的な参考図書リストであるとはいえようが、1973年末現在(若干の例外はある)の収録であり、しかも自然科学系のものには漏れが多く、英語圏のものへの偏りは免れ難い。こうしたツールを評価リストとして用いるには、いくつかの制約を考慮する必要がある。しかも、Sheehy収録のタイトルをすべて所蔵したとしても、そ

のコレクションに対して、利用者が必ずしも高い評価を与えるとは限らない。それは、かえって特徴のないものになる恐れがある。いずれにせよ、コレクションの評価は難しく、究極的には、個々の大学の研究教育プログラムとの関連で評価しなければならない。こうした点に留意した上で、参考図書の基本リストとの照合結果を、評価のための1資料として用いるならば、それなりの価値があると思われる。

III 重複調査

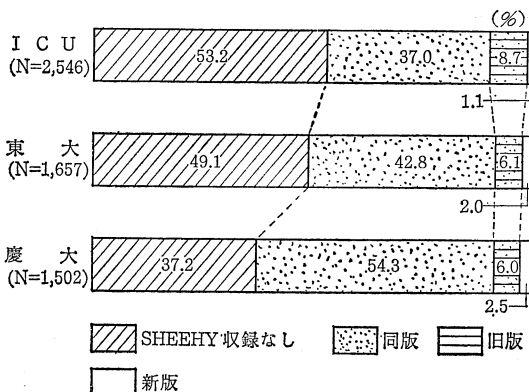
前述のように、この調査の目的のひとつは、基本的なレファレンス・コレクション構築のための基礎データを得ることであった。そこで、レファレンス・コレクションの規模においては、大差はないが、かなり性格の異なる大学図書館において、いずれのコレクションにも含まれているような参考図書であるならば、基本的なものである可能性が大であろうと推定して作業を進めることにした。したがって、まず、ICU、東大、慶大のコレクションの中で、相互に重複しているタイトルを調べ、2館以上が共通に所蔵しているタイトルを基礎データとして使うことにした。

実際にこの作業を行う場合、単なる書名だけによる同定に頼ることはできない。それぞれの書誌的事項が部分的に相違していることがあり、それらを重複したものとみなすかどうかの判定は単純ではない。このような事情から、書誌的事項が完全に一致しない場合、次のような重複の判定規準を設けることにした。すなわち、(1)出版地あるいは出版者が相違していても、書名、刊年、ページ数といった他の書誌的事項が一致している場合、(2)刊年に数年のズレがあっても、単に刷りの違いであって、他の書誌的事項が一致している場合には、そのタイトルは重複しているものとみなした。ただし、版次の異なるものは、たとえ他の書誌的事項が一致していたとしても別個のタイトルとして扱うことにした。

以下に、必要に応じて、このような規準にしたがって重複調査をした結果を、単行書と逐次刊行物について、さらにそれぞれの2館ないし3館の重複について報告する。

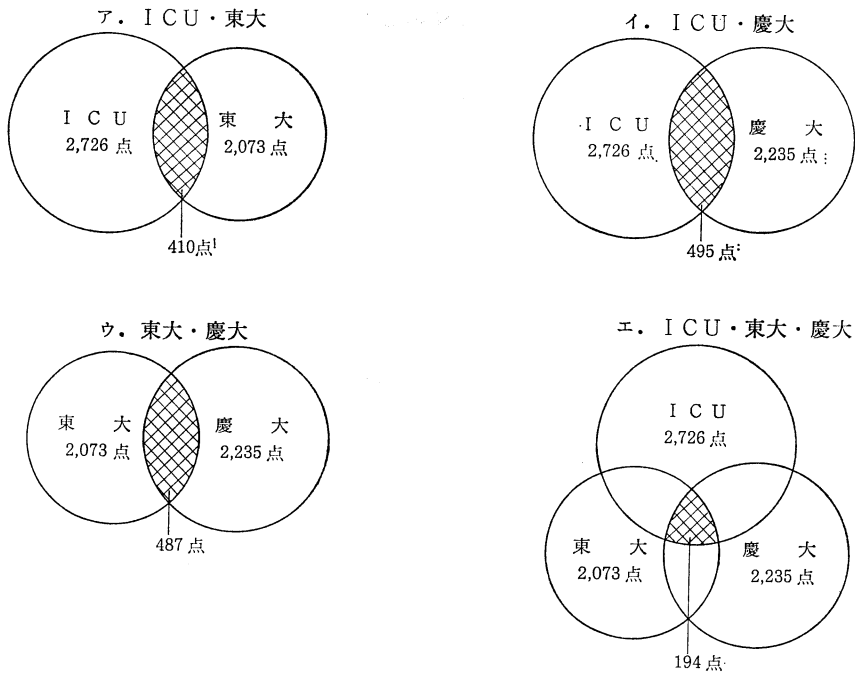
A. 単行書

まず、ICU、東大、慶大のうち、それぞれ2館におけるコレクションの重複を調べた。第7図は各館の重複度を示したものである。これによれば、ICUと慶大の重複タイトルが495点で最も多い。これはICUコレク

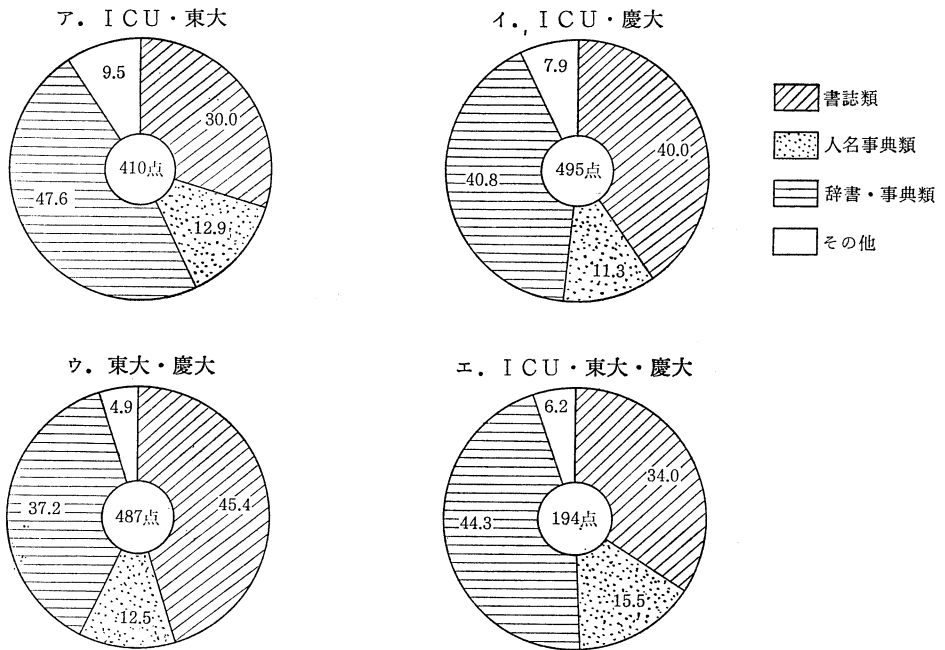


* 1973年以前に刊行のタイトルに限定

第6図 レファレンス・コレクションに占める SHEEHY収録タイトルの比率* (単行書・逐次刊行物)

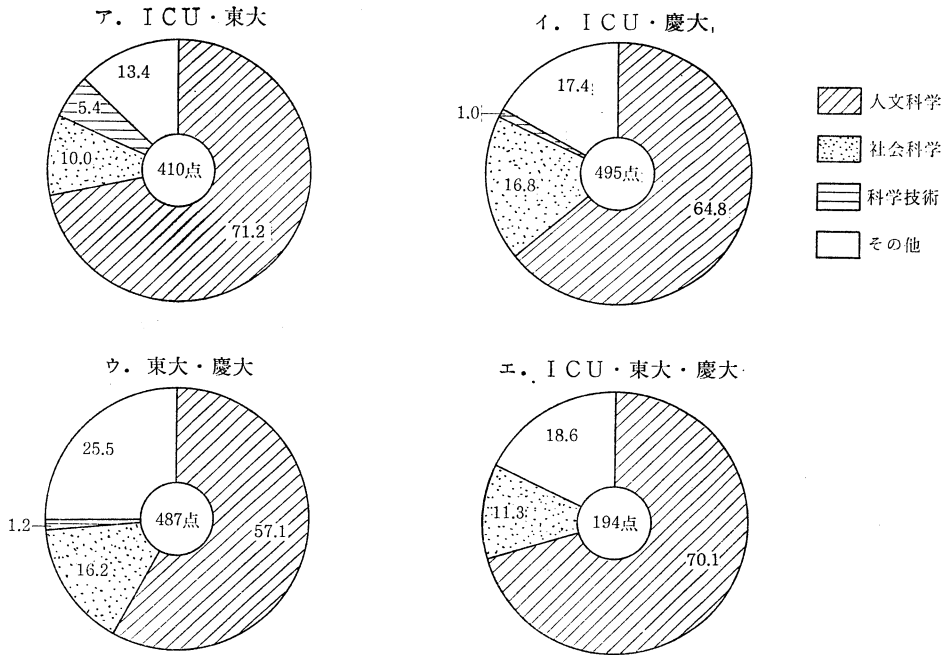


第7図 重複タイトル (単行書)

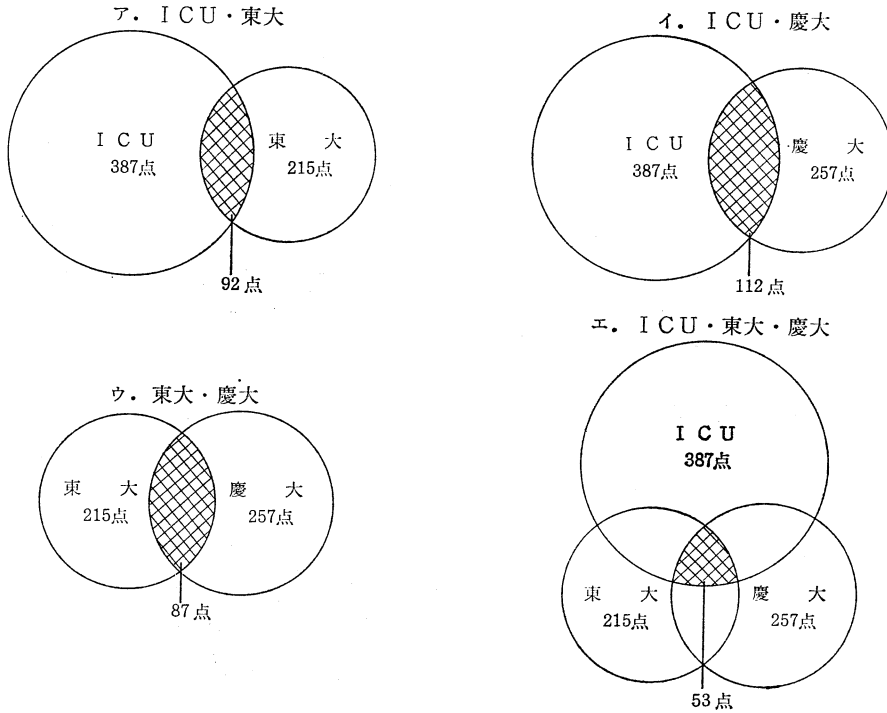


第8図 参考図書の種類別重複タイトル (単行書) (%)

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析



第9図 主題分野別重複タイトル (単行書) (%)



第10図 重複タイトル (逐次刊行物)

ションの18.2%, 慶大コレクションの22.1%に相当する。次に多いのが東大と慶大の487点であり, 東大のコレクションの23.5%, 慶大コレクションの21.8%に相当する。重複が一番少ないのがICUと東大であり, その410点はICUコレクションの15.0%, 東大コレクションの19.8%に相当する。この結果から, 各図書館のコレクションに占める2館での重複タイトルの比率は, 15~24%の範囲内にあることが明らかになった。

さらに, ICU, 東大, 慶大の3館の重複状況を示したのが第7図エである。この図からも明らかなように, 3館の重複は2館の重複と比べると, その数は半分以下に減っている。この3館重複タイトル194点は, ICUコレクションの7.1%, 東大コレクションの9.4%, 慶大コレクションの8.7%と, いずれも10%を下回っている。

この2館の重複と3館の重複についてどのような特徴が見出せるのか, 参考図書のタイプと主題分野の二つの面から検討を加えることにした。まず, 参考図書のタイプの面から特徴をとらえるために, 参考図書のタイプを既述のように四つのグループに類別した上で, それぞれの比率を調べ, その結果を円グラフで表わしたのが第8図である。2館の重複について, ICU・東大では辞書類が, 東大・慶大では書誌類が最も高い比率を占めており, ICU・慶大では辞書類と書誌類がほぼ同じ比率である。3館の重複については, 辞書類の重複の比率が一番高くなっている。

ここで, 3館重複の参考図書のタイプについてさらに細分してみた結果が第16表である。これによると, 点数としては辞書・事典の77点が最も多くなっているが, これはすべてのタイプの中で, 辞書・事典のタイトル数が3館合わせて2007点と最も多いので, 重複点数が他より多くなるのは当然といえば当然かもしれない。しかしながら, タイプ別に, 3館所蔵タイトル全体に占める重複タイトルの比率を計算してみると, 重複点数の最も多い辞書・事典が3.8%, 次に多い書誌は3.2%となり, 百科事典の半分以下である。

次に, 2館の重複と3館の重複について主題面での特徴を円グラフで表わしたのが第9図である。この図のいずれにおいても, 人文科学のタイトルの重複が顕著に現われている。特に, ICU・東大および3館の重複タイトルでは70%を越えている。

3館の重複タイトルの主題分布をもう少し詳しくみるために, NDC主類別の分布を調べることにした。その結果は, 第17表で示したように, 点数では200が最も多

第16表 参考図書のタイプ別3館重複タイトル(単行書)

タイプ	重複タイトル		3館所蔵	
	点数(A)	%	タイトル数*(B)	A/B×100%
辞書・事典	77	39.7	2007	3.8
書誌	54	27.8	1670	3.2
人名事典	29	14.9	303	9.6
百科事典	9	4.6	93	9.7
主題文献案内	6	3.1	207	2.9
蔵書目録	5	2.6	298	1.7
地図帳	3	1.5	150	2.0
便覧	3	1.5	301	1.0
年表	2	1.0	21	9.5
索引	2	1.0	43	4.6
名鑑	1	0.5	246	0.4
引用句辞書	1	0.5	47	2.1
地名事典	1	0.5	31	3.2
総合目録	1	0.5	74	1.4
計	194	100.0		

* 重複タイトルは1点として数えた。

く, これに100が続く。一方, 3館所蔵タイトル中に占める比率をみると, 900が5.4%と最も高く, 200が4.7%でこれに続く。全体的に各主類とも低い率であるが, その中で100の比率が3館所蔵タイトル数が368点と多い割には3.3%と高くなっている。また, 400, 500, 600のタイトルが1点も重複していないことは注目に値する。

その他の比較の側面として, 言語, 出版国, 刊年などの特徴を調べてみたが, 格別とりあげるほどの意味がないと判断したので本稿では省略した。

B. 逐次刊行物

単行書と同じように, 2館の重複と3館の重複を図示したのが第10図である。

まず2館の場合をみると, 単行書の順位と同様, ICU・慶大の重複が112点と最も多く, ICUコレクションの28.9%, 慶大コレクションの43.6%に相当する。次に多いのがICU・東大の92点で, ICUコレクションの23.8%, 東大コレクションの42.8%を占める。東大・

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

第17表 NDC主類別3館重複タイトル(単行書)

NDC主類	重複タイトル		3館所蔵	
	点数(A)	%	タイトル数*(B)	A/B×100%
000	36	18.6	965	3.7
100	12	6.2	368	3.3
200	49	25.3	1034	4.7
300	22	11.3	1021	2.2
400	0	0.0	304	0.0
500	0	0.0	118	0.0
600	0	0.0	82	0.0
700	6	3.1	259	2.3
800	39	20.1	1133	3.4
900	30	15.5	552	5.4
計	194	100.0		

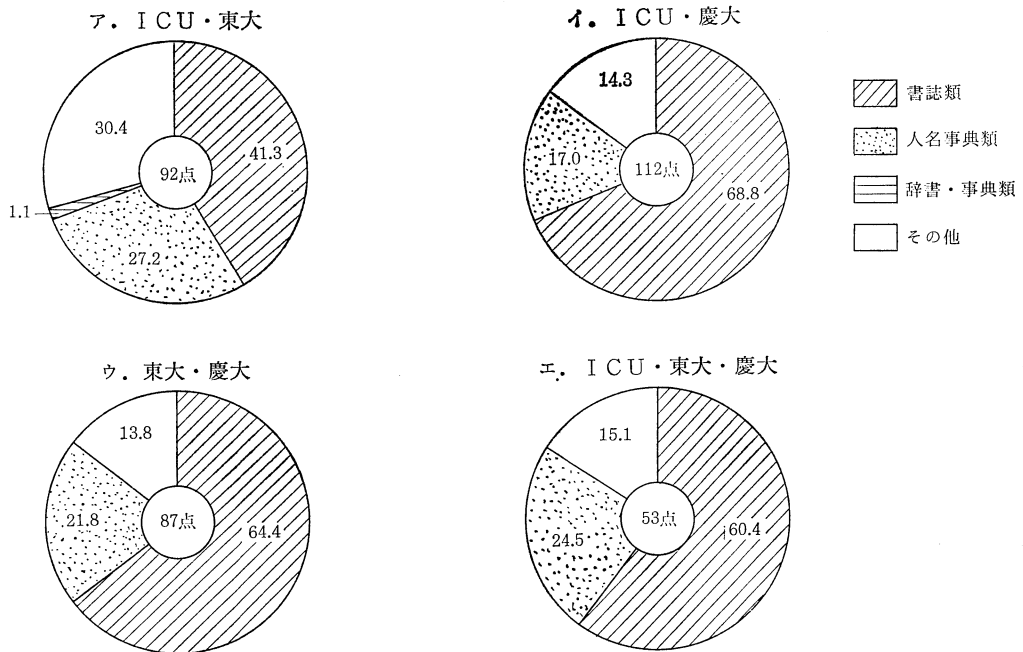
* 重複タイトルは1点として数えた。

慶大は87点で、東大コレクションの40.5%、慶大コレクションの33.9%に当たる。このように、各コレクションに占める2館重複タイトルの比率は、逐次刊行物の方が単行書よりも一様になら高くなっていることがわかる。

しかし、3館の重複は53点にとどまり、これはICUコレクションの13.7%、東大コレクションの24.7%、慶大コレクションの20.6%に相当し、いずれも単行書よりも高くなっている。3館の重複タイトル53点を Sheehy と照合してみたところ、収録されていなかったのはわずか2点にすぎなかった。このことから、3館共通に所蔵しているタイトルは、一応基本的な参考図書とみなしてよいのではなかろうか。

さらに、2館および3館の重複タイトルの特徴をタイプ別に調べた結果が第11図である。これによれば、書誌類の比率が高く、ICU・慶大では68.8%であり、次いで東大・慶大では64.4%を占めている。これに対してICU・東大では、書誌類、人名事典類、「その他」に分散している。3館の重複タイトルでも、書誌類が60%以上を占めている。

3館重複タイトルのタイプについてさらに詳しく見たのが第18表である。これによっても、やはり書誌の点数が一番多いが、3館所蔵タイトル中に占める比率でみる



第11図 参考図書のタイプ別重複タイトル(逐次刊行物)

と、人名事典が他のタイプよりも重複度が高い。

重複タイトルについて、主題分野の構成比を円グラフで示したのが第12図である。これによれば、2館の重複はいずれも「その他」が最も多い。3館の重複について

第18表 参考図書のタイプ別3館重複タイトル
(逐次刊行物)

タイプ	重複タイトル		3館所蔵	
	点数(A)	%	タイトル数*(B)	A/B×100%
書誌	29	54.7	250	11.6
人名事典	8	15.1	40	20.0
名鑑	6	11.3	63	9.5
年鑑	6	11.3	120	5.0
抄録	2	3.8	25	8.0
便覧	1	1.9	17	5.9
統計集	1	1.9	43	2.3
計	53	100.0		

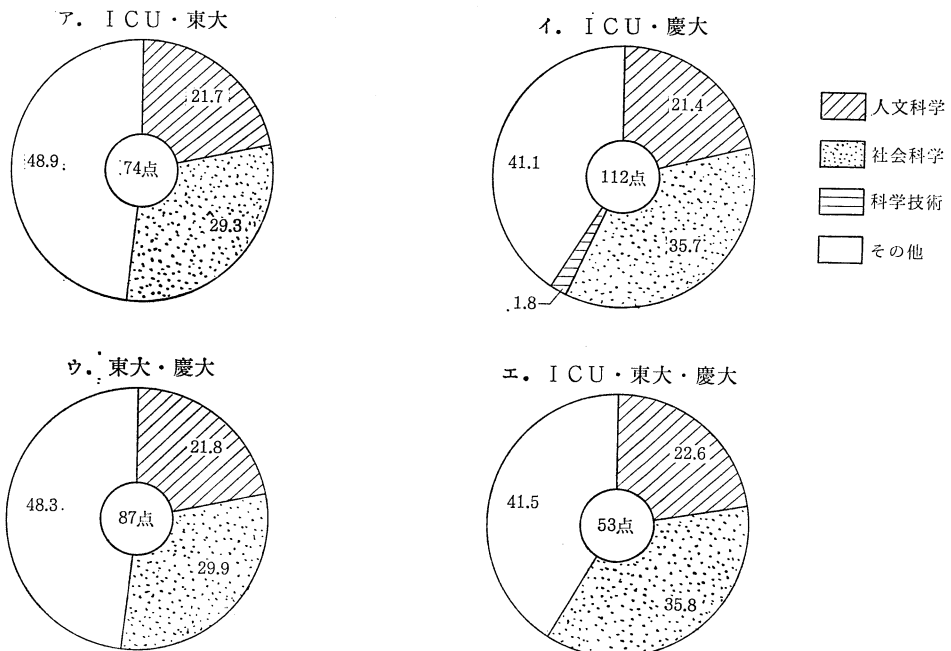
* 重複タイトルは1点として数えた。

の構成比も2館とほぼ類似している。この逐次刊行物の主題分布には、単行書の場合のように、人文科学への高い集中といった著しい特徴は見出せない。

3館の重複のタイトルについて、主題面での特徴をみるため、NDC主類による分布を示したのが第19表である。重複の点数をみる限り、000と300にほぼ二分されている。200は点数が少ないのに、3館所蔵タイトルに占める比率では12.1%と最も高い重複度である。

C. 重複タイトルと参考図書の解題書誌における収録率

重複調査の最後に、単行書と逐次刊行物を合わせたコレクション全体におけるユニーク・タイトル、2館重複タイトル、3館重複タイトルの構成がどうなっているかを、各図書館について調べた。ここでの2館重複タイトルというのは、たとえばICUの場合、東大あるいは慶大のいずれか1館とだけ重複しているタイトルを指している。第13図をみると、3館のいずれもユニーク・タイトルがコレクションの半分以上を占めており、とりわけICUの比率は他の2館より10%以上も高くなっている。全体の構成比をみると、東大と慶大がほぼ類似のパターンを示していることが理解できよう。



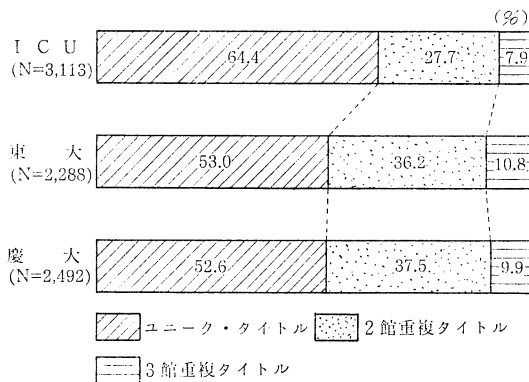
第12図 主題分野別重複タイトル (逐次刊行物)

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

第19表 NDC主類別3館重複タイトル(逐次刊行物)

NDC主類	重複タイトル		3館所蔵	
	点数(A)	%	タイトル数*(B)	A/B×100%
000	22	41.5	201	10.9
100	1	1.9	29	3.4
200	7	13.2	58	12.1
300	19	35.8	217	8.8
400	0	0.0	56	0.0
500	0	0.0	25	0.0
600	0	0.0	1	0.0
700	1	1.9	11	9.1
800	1	1.9	12	8.3
900	2	3.9	11	18.2
計	53	100.0		

* 重複タイトルは1点として数えた。



第13図 コレクション重複度(単行書・逐次刊行物)

また、Sheehy の収録期限を勘案し、1973年までに刊行された参考図書に限って、Sheehy への収録率を調べることとした。その結果、ユニーク・タイトルについては41.9%、2館重複タイトルは70.6%、3館重複タイトルは85.5%が Sheehy に収録されていることが明らかになった。このように、基本的な参考図書を重点的に収録解題している Sheehy に高い比率で収録されていることは、3館重複タイトルが基本的な参考図書である可能性が大であると想定したことを裏づけるものである。実際

にどのような参考図書が3館重複タイトルであるかを示すために付録としてそのリストを添えることにした。この大多数は知名度の高い頻繁に利用される参考図書であり、基本的参考図書と呼ぶのにふさわしいものであると見てよい。

もちろん、Sheehy との一致率の高低だけでコレクションが基本的な参考図書を多く含むかどうかを判断することはできない。Sheehy はそれ自体としての編集方針があるからである。したがって、コレクションの評価に際して、より望ましいことは他の基本的なリストとの一致率調査をさらに重ねることである。しかし、そのような基本的なリストとして使える適当なものを選ぶのは容易でない。

例えば、まず考えられるものとして、Sheehy と併称される解題書誌 Walford の *Guide to reference material*¹⁰⁾ があるが、これはどうであろうか。これは英国で出版された参考図書を中心に、世界各国のものを広範に収録している包括的な解題書誌である。したがって、3館重複タイトルとの照合調査をするまでもなく、結果は自明である。

そこで、強いて基本的リストを求めるならば、これを基礎にして、英国の参考図書館向けに主要な参考図書を選んで解題した簡約版 *Walford's concise guide to reference material* (London, Library Association, 1981. 以下、Walford と略す) を使った方がより適切であろうと判断した。

こうした選んだ Walford に3館重複タイトルがどの程度収録されているのか、その収録点数(率)を調査した結果、独立項目のものが126点(51.2%)、従属項目のものが22点(8.9%)で、合わせて60.2%が収録されていることが分かった。これによって、逆に、40%近い数のタイトルが Walford には含まれていないともいえる。しかし、その多くは英語以外のもの、もしくは日本で発行されたものであり、これらが英国の図書館向けに編集された Walford に収録されていないのは当然ともいえる。事実、これらを除いた収録率は、67.7%というかなり高い率を示している。

参考までに、3館重複タイトルのうち、いずれが Sheehy および/あるいは Walford に収録されているのかを明らかにするために、付録の「3館共通参考図書リスト」に Sheehy の固有番号および Walford の略号 W にページ数を加えた記号を付しておいた。

おわりに

ICU, 東大, 慶大レファレンス・コレクションの比較分析を通して, それぞれのコレクションの特徴をいくつかの側面から明らかにすることができた。加えて, 重複調査により基本的なレファレンス・コレクションを考えるための基礎データが得られた。しかしながら, コレクション評価としてみた場合, 本調査には明らかに限界が認められる。というのは, 今回の調査では, 各図書館に固有の条件を考慮に入れ, コレクションの質的側面にも出来るだけ言及しようとしたが, それは十分なものとは言えず, 結局, 数量的な把握が主とならざるを得なかったからである。

本来, レファレンス・コレクションの実質的な評価は, 個別図書館の方針, より具体的にはコレクションの目的, 収集範囲, 配置, 除籍規準等が明記されたレファレンス・コレクションの方針をどの程度達成しているかを量的および質的なデータに基づいて判断することであろう。ところが, 今回の調査対象とした図書館を含め, わが国の大多数の大学図書館はレファレンス・コレクション構築・維持のための方針を成文化していないのが実情である¹⁾。このことが, レファレンス・コレクションの評価を難しくしている一因でもある。

また, われわれの用いた数量的な比較や標準的な書誌によるチェックリスト法といった方法は, 数あるコレクション評価法の一部にすぎない²⁾。これらの他にも, 専門家による書架の直接点検法, 利用者に評価を求める質問紙・面接法などいくつか挙げることができる。ただ, 現時点では, 唯一絶対といえる評価法があるわけではなく, それぞれの方法は相互補完的である。したがって, 適切な評価を行うためには, ひとつの方法にのみ依存するのではなく, 各種の方法を組み合わせた多面的アプローチが必要である。

今後, 少しでも多くの図書館で, レファレンス・コレクション構築・維持の方針が確立され, それに基づく様々なコレクション評価が試みられることを期待したい。われわれの調査がそのための出発点となれば幸いである。

最後に, 付録として掲載した「3館共通参考図書リスト」の意義についてひとこと述べておきたい。出版物の増大, 利用者の要求の多様化, 図書館予算の逼迫といった条件が相乗効果となり, 今後ますます, 資源共用ネットワークの必要性が叫ばれ, 個別図書館のネットワーク

への依存度が高まってくるであろう。このような趨勢はレファレンス・コレクションについても例外ではなく, 例えば, レファレンス担当者は, 高価で利用頻度の低い参考図書を自館で購入すべきか, あるいは他館のものを利用すべきかの意思決定を迫られるケースがふえてくるに違いない。確かに, ネットワークを通して参考図書の相互利用が増大することは予想できないことではないが, それには一般図書と異なりかなりの制約がある。ましてや, 基本的な参考図書まで他館に依存することは, 図書館としての基本的な参考調査機能を放棄することを意味する。ネットワークが発達したからといって, 将来においても, 自館の限られた予算でよりすぐれたレファレンス・コレクションを構築・維持していく必要性は少しも減じることはないであろう。このように考えるならば, 今回の調査で得られた3館重複タイトルのリストは, コレクション構築のためのひとつの指針として役立つのではないだろうか。このリストを基礎にして, さらに館数をふやして重複調査を進めてゆけば, より精選された参考図書のリストが得られるであろうし, 一方, 信頼できるレファレンス担当者にこのリストを点検してもらい, 基本コレクションとして不可欠なタイトルを加えることでリストを充実していくことも可能である。こうしたことはわれわれの今後の課題である。

調査の実施に当たって, 国際基督教大学図書館, 東京大学総合図書館, 慶応義塾大学三田研究教育情報センターの関係者各位から多くの協力を得た。ここに記して謝意を表したい。

- 1) 1977年に実施した長沢・常盤の調査によれば, 一般図書と混架している図書館は国公立にはなく, 私立に1館あるのみである。長沢雅男, 常盤繁“大学中央館における参考業務の実態,” 東京大学 教育学部 紀要, Vol. 18, 1979, p. 112
- 2) T. Freides は, 大学図書館のレファレンス・サービスを扱った1960年代後半から現在までの文献232点を, それぞれのテーマにより11のカテゴリーに類別している。それによれば, レファレンス・コレクション関係の文献はわずか9点にすぎず, 全体の1割にも達しない。Freides, Thelma. “Current trends in academic libraries,” *Library trends*, Vol. 31, No. 3, Winter 1983, p. 458-9.
- 3) 例えば, 次の文献にレファレンス・コレクションの最適規模についての言及がある。Blakely, Florence. “Perceiving patterns of reference service,” *RQ*, Vol. 11, Fall 1971, p. 33. Katz, W. A. *Introduction to reference work*, Vol.

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

- II, Reference services.* New York, McGraw-Hill, 1969, p. 108.
- 4) Coleman, Kathleen and Dickinson, Pauline. "Drafting a reference collection policy," *College and research libraries*. Vol. 38, p. 227 (1977).
 - 5) 長沢・常盤, *op. cit.*, p. 112.
 - 6) 長沢雅男 他, "大学図書館におけるレファレンス・コレクションの数量的分析," 東京大学教育学部紀要 Vol. 21, p. 111-31 (1981).
三浦逸雄 他. "大学図書館レファレンス・コレクションの分析—東京大学総合図書館を中心に," 日本図書館学会月例研究会発表 (1983年5月)
 - 7) I C U, 慶大, 東大図書館の各蔵書数は『日本の図書館 1982』(日本図書館協会 1982) による.
 - 8) 長沢他, *op. cit.*, p. 130-1.
 - 9) 長沢他, *Ibid.*, p. 117.
 - 10) Walford, A. J. ed. "Guide to reference material". 3d ed. London, Library Association, 1973-77. 3 vols.
 - 11) 大学図書館のレファレンス・コレクション構築の方針を策定するにあたっては次の文献が参考になろう。Lehocky, Barbara. "Academdc reference collection developmeat : policy statement". (Papers presented at the Missouri Library Association Annual Conference, Sept. 28, 1979) 9 p. ED 107 308.
 - 12) レファレンス・コレクションに限定していないが, コレクションの評価法については, A L A のガイドラインに簡潔な説明がある。ALA Resources and Technical Services Division, Collection Development Committee. "Guidelines for the evaluation of the effectiveness of library collections". <Guidelines for collection development, ALA, 1979.> p. 9-19.

三館共通参考図書リスト

(1982年3月末日現在)

<凡 例>

1. 配列

- ・一次配列：参考図書のタイプ
- ・二次配列：タイトルのアルファベット順

2. 記載項目（・印の項目は一部にのみ記載）

- *タイトル
- ・版表示
- ・編者
- *出版地
- *出版者
- *出版年
- ・巻数
- ・Sheehy所在記号
- ・Walford所在ページ

参考図書の解題書誌

- American Reference Books Annual.** Littleton, Colo., Libraries Unlimited, 1970+ AA380.
- Best Reference Books, 1970-1980: Titles of Lasting Value Selected from American Reference Books.** Holte, S. Littleton, Colo., Libraries Unlimited, 1981. W18(new).
- Guide to Reference Books:** 8th ed. Winchell, C. M. Chicago, American Library Association, 1967. W19(old)
- Guide to Reference Books.** 9th ed. Sheehy, E. P. Chicago, American Library Association, 1976. W19.
- Guide to Reference Material.** 2d ed. Walford, A. J. London, Library Association, 1966-1970. 3 vols. AA404. W19(old).
- Guide to Reference Material.** 3d ed. Walford, A. J. London, Library Association, 1973-1977. 3 vols. AA404(new). W19.
- Guide to Russian Reference and Language Aids.** Neiswender, R. New York, Special Libraries Association, 1962. AA393.
- Guide to Russian Reference Books.** Maichel, K. Stanford, Calif., Hoover Institution on War, Revolution and Peace, Stanford Univ., 1962+ AA390. W325.
- Handbuch der Bibliographischen Nachschlagewerke.** 4., erw., völlig neu bearb. Aufl. Totok, W. Frankfurt am Main, V. Klostermann, 1972. AA11. W19.
- Reference and Subscription Books Reviews.** 1968/70-. Chicago, American Library Association, 1970+ AA401.
- Reference Sources.** Ann Arbor, Pierian Press, 1977+
- Les Sources du Travail Bibliographique.** Malcles, L. N. Geneve, Droz, 1950-1958. 3 vols. W19.

主題文献案内

- Documents of International Organisations.** Dimitrov, T. D. London, International University Publications, 1973. CK196. W31.
- Encyclopedia of Educational Research, a Project of the American Educational Research Association, a Department of the National Education Association.** 3d ed. Harris, C. W. New York, Macmillan, 1960. CB88(old).

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

- A Guide to Foreign Language Courses and Dictionaries.** 3d ed., rev. and enl. Walford, A. J. London, Library Association, 1977. W115.
- A Guide to the Study of the United States of America.** U. S. Library of Congress. General Reference and Bibliography Division. Washington, U. S. Govt. Print. Off., 1960. DB28. W331.
- Harvard Guide to American History.** Rev. ed. Freidel, F. B. Cambridge, Mass., Belknap Press of Harvard University Press, 1974. 2 vols. DB17. W387.
- Sources of Information in the Social Sciences.** White, C. M. Totowa, N. J., Bedminster Press, 1964. CA10(old). W59(old).

書誌

- The ABS Guide to Recent Publications in the Social and Behavioral Sciences.** New York, American Behavioral Scientist, 1965. CA11.
- The Allied Occupation of Japan, 1945-1952.** Ward, R. E. Chicago, American Library Association, 1974. DE155.
- Bibliographia Philosophica, 1934-1945.** Brie, G. A. de. Antverpiae, Spectrum, 1950-1954. 2 vols. BA9.
- Bibliographie der Deutschen Literaturwissenschaft.** Frankfurt am Main, V. Klostermann, 1957-1969. BD606(old). W310(old).
- Bibliographie der Deutschen Sprach- und Literaturwissenschaft.** Frankfurt am Main, V. Klostermann, 1969+ BD606. W310.
- Bibliography of American Literature.** Blanck, J. N. New Haven, Yale University Press, 1957+ BD266. W309.
- A Bibliography of Christianity in Japan. Protestantism in English Sources (1859-1959).** Tokyo, International Christian University. Committee on Asian Cultural Studies, 1966.
- A Bibliography of the Japanese Empire.** Wenckstern, F. von. Leiden, E. J. Brill, 1895-1907. 2 vols. DE156.
- Bibliography on Buddhism.** Hanayama, Shinsho. Tokyo, Hokuseido, 1961. BB326.
- Books on Demand: Author Guide.** Ann Arbor, Mich., University Microfilms International, 1977. W24.
- Books on Demand: Subject Guide.** Ann Arbor, Mich., University Microfilms International, 1977. W24.
- Books on Demand: Title Guide.** Ann Arbor, Mich., University Microfilms International, 1977. W24.
- Books on Japan.** Ichimura, Shin'ichi. Tokyo, Japan Foundation, 1974.
- China in Books: a Basic Bibliography in Western Language.** Tanis, N. E. Greenwich, Conn., Jai Press, 1979.
- Christianity in Japan.** Ebisawa, A. Tokyo, Committee on Asian Cultural Studies; International Christian University, 1960.
- A Concise Bibliography of French Literature.** Mahaffey, D. New York, Bowker, 1975. W311.
- A Critical Bibliography of French Literature.** Cabeen, D. C. Syracuse, N. Y., Syracuse University Press, 1947+ BD708.
- The Cumulative Book Index.** 1928/32- New York, H. W. Wilson, 1933+ AA461. W9.
- A Dictionary of Literature in the English Language from Chaucer to 1940.** Myers, R. Oxford, Pergamon Press, 1970. 2 vols. BD414. W304.
- Foreign Affairs Bibliography; a Selected and Annotated List of Books on International Relations, 1932-1942.** Woolbert, R. G. New York, Harper, 1969. DA138. W69.
- Foreign Affairs Bibliography; a Selected and Annotated List of Books on International Relations, 1942-1952.** Roberts, H. L. New York, Harper, 1955. DA138. W69.
- Foreign Affairs Bibliography; a Selected and Annotated List of Books on International Relations, 1952-1962.** Roberts, H. L. New York, Bowker, 1964. DA138. W69.
- A Guide to Theses and Dissertations; an Annotated International Bibliography of Bibliographies.** Reynolds, M. M. Detroit, Gale Research, 1975. W24.
- Humanities Index.** New York, H. W. Wilson, 1974+ AE172. W3.
- Index to Theses Accepted for Higher Degrees in the Universities of Great Britain and Ireland.** 1950/51-. London, Aslib, 1953+ AH44. W25.
- Index Translationum.** 1948-. Paris, Unesco, 1949+ AA129. W4.
- International Bibliography of Economics.** 1952-. London, Tavistock Publications, 1955+ CH36. W70.
- International Bibliography of Political Science.** 1953-. Paris, Unesco, 1954+ CJ31. W67.
- International Bibliography of Social and Cultural Anthropology.** 1955-. London, Tavistock Publications, 1958+ CD54. W164.
- International Bibliography of Sociology.** 1951-. London, Tavistock Publications, 1952+ CC4. W61.

- International Bibliography of the History of Religions.** 1952-. Leiden, E. J. Brill, 1954+ BB6. W48.
- Japan Bibliographic Annual.** Yabuki, Katsuji. Tokyo, Hokuseido, 1956-1957. 2 vols.
- Japanese Geography.** Hall, R. B. Ann Arbor, Univ. of Michigan Press, 1956.
- Japanese Social Science Works.** Tokyo, International House of Japan. Library, 1974.
- Japanese Sociology and Social Anthropology.** Beardsley, R. K. Ann Arbor, University of Michigan Press, 1970.
- Japanese Studies of Modern China since 1953.** Kamachi, N. Cambridge, Mass., East Asian Research Center, Harvard University, 1975. DE87(new).
- KBS Bibliography of Standard Reference Books for Japanese Studies.** Kokusai Bunka Shinkokai. Tokyo, Univ. of Tokyo, 1959-1970. 10 vols. DE151.
- KBS Bibliography of Standard Reference Books for Japanese Studies.** Rev. ed. Kokusai Bunka Shinkokai. Tokyo, Univ. of Tokyo Press, 1971-1972. DE151(new).
- La Librairie Francaise; Tables Decennales 1966-1975. Repertoire Cumulatif des Livres de l'Annee-Biblio.** Paris, Cercle de la Librairie, 1979.
- MLA International Bibliography of Books and Articles on the Modern Languages and Literature.** New York, Modern Language Association of America, 1963+ BD17. W115.
- Modern Japanese Literature in Translation.** International House of Japan. Library. Tokyo, Kodansha International, 1979. W318.
- The New Cambridge Bibliography of English Literature.** Watson, G. Cambridge, The University Press, 1969-1977. 5 vols. BD376. W302.
- Planning, Development, and Change.** Jones, G. N. Honolulu, East-West Center Press, 1970.
- The Reader's Adviser.** 11th ed., rev. and enl. Courtney, W. F. New York, R. R. Bowker, 1968-1969. 2 vols. AA339. W295(old).
- Recent Publications in the Social and Behavioral Sciences.** 1966-. Beverly Hills, Calif., American Behavioral Scientist, 1966+ CA12.
- Research Resources on Hokkaido, Sakhalin and the Kuriles at the East West Center Library.** Honolulu, Hawaii. University. Center for Cultural and Technical Interchange Between East and West. Library, 1967.
- Russia and the Soviet Union.** Horecky, P. L. Chicago, University of Chicago, 1965. DC361. W320.
- A Selected List of Books and Articles on Japan in English, French and German.** Rev. and enl. Borton, H. Cambridge, The Harvard Univ. Press, 1954. DE149.
- Serial Bibliographies in the Humanities and Social Sciences.** Gray, R. A. Ann Arbor, Mich., Pierian Press, 1969. AA22. W3.
- A Short-Title Catalogue of Books Printed in England, Scotland, & Ireland and of English Books Printed Abroad, 1475-1640.** 2d ed., rev. & enl. Pollard, A. W. London, Bibliographical Society, 1976+ AA647(new). W6(new).
- Titles in Series.** 3d ed. Baer, E. A. Metuchen, N. J., Scarecrow Press, 1978. 4 vols. AA90(new)
- The United States Catalog.** New York, H. W. Wilson, 1899-1927. AA460. W9.
- A World Bibliography of African Bibliographies.** Besterman, T. Totowa, N. J., Rowman and Littlefield, 1975. W4.
- A World Bibliography of Bibliographies.** 3d and final ed., rev. and greatly enl. throughout. Besterman, T. Geneve, Societas Bibliographica, 1956. 4 vols. AA14(old). W4(old).
- A World Bibliography of Bibliographies.** 4th ed., rev. and greatly enl. throughout. Besterman, T. Lausanne, Societas Bibliographica, 1965-1966. 5 vols. AA14. W4.
- A World Bibliography of Bibliographies, 1964-1974.** Toomey, A. F. Totowa, N. J., Rowman and Littlefield, 1977. 2 vols. W4.

図書館蔵書目録

- Books on Japan, a List of Acquisitions, 1955-1970.** Tokyo, International House of Japan. Library, 1971.
- Catalogue of the Manchu-Mongol Section of the Toyo Bunko.** Poppe, N. N. Tokyo, Toyo Bunko, 1964.
- A Classified List of Books in Western Languages Relating to Japan.** Kokusai-Bunka-Shinkokai. Tokyo, University of Tokyo Press, 1965.
- Japan: International House of Japan Library, Acquisition List, 1955-1975.** Tokyo, International House of Japan. Library, 1975.
- Library of Congress Catalog. Books: Subjects ... 1970-1974.** U. S. Library of Congress. Totowa, N. J., Rowman and Littlefield, 1976. 100 vols. AA99(new).

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

総合目録

Catalogue Collectif des Periodiques du Debut du XVIIe Siecle a 1939. Paris, Bibliotheque Nationale. Dept. des Periodiques, 1967-1977. 4 vols. AE142.

索引誌

Art Index. 1929-. New York, H. W. Wilson, 1930+ BE31. W255.

Australian Public Affairs Information Service. Canberra, Commonwealth National Library, 1945+ CA28.

The Book Review Digest. New York, H. W. Wilson, 1905+ AA411. W25.

The Education Index. New York, H. W. Wilson, 1932+ CB83. W97.

Essay and General Literature Index. New York, H. W. Wilson, 1934+ BD189. W24.

International Index. New York, H. W. Wilson, 1920-1965. AE171(old). W3.

Readers' Guide to Periodical Literature. New York, H. W. Wilson, 1905+ AE169. W29.

Social Sciences and Humanities Index. New York, H. W. Wilson, 1965-1974. AE171. W59(old).

Social Sciences Citation Index. 1972-. Philadelphia, Institute for Scientific Information, 1973+ CA37. W59.

Social Sciences Index. New York, H. W. Wilson, 1974+ AE173. W59.

索引

Granger's Index to Poetry. 6th ed. Granger, E. New York, Columbia University Press, 1973. BD227. W299.

Statistics Sources. 4th ed. Wasserman, P. Detroit, Gale Research, 1974. CG52.

抄録誌

Dissertation Abstracts. Vol. 12-Vol. 29. Ann Arbor, Mich., University Microfilms, Xerox Company, 1952-1969. AH14(old). W24(old).

Dissertation Abstracts International. Vol. 30-. Ann Arbor, Mich., University Microfilms International, 1969+ AH14. W24.

逐次刊行物リスト

Irregular Serials & Annuals. New York, R. R. Bowker, 1967+ AE8. W29.

Magazines for Libraries. 2d ed. Katz, W. A. New York, R. R. Bowker, 1972. AA419(new). W28(old).

Magazines for Libraries. 3d ed. Katz, W. A. New York, R. R. Bowker, 1978. AA419(new). W28.

Serials for Libraries. Marshall, J. K. New York, Neal/Schuman Publishers, 1979.

Ulrich's International Periodicals Directory. 11th Ed. -. New York, R. R. Bowker, 1965+ AE10. W27.

言語辞書

Abbreviations Dictionary. 4th ed. De Sola, R. New York, American Elsevier, 1974. AD34. W2(old).

Althochdeutsches Wörterbuch. Schutzeichel, R. Tübingen, Max Niemeyer, 1969.

The American Heritage Dictionary of the English Language. Morris, W. New York, American Heritage, 1969. AD12. W117.

Brockhaus-Wahrig Deutsches Wörterbuch. Wahrig, G. Wiesbaden, Brockhaus, 1980+

The Cambridge Italian Dictionary. Reynolds, B. Cambridge, Cambridge University Press, 1962-1981. 2 vols. AD450.

Chinese-English Dictionary of Contemporary Usage. Chi, Wen-Shun. Berkeley, University of California Press, 1977.

Collins-Robert French-English, English-French Dictionary. Atkins, B. T. London, Collins, 1978. W124.

A Comparative and Etymological Dictionary of the Nepali Language. Turner, R. L. London, K. Paul, 1931.

Deutsches Wörterbuch. Grimm, J. L. K. Leipzig, Verlag von S. Hirzel, 1854-1960. 16 vols. AD318.

A Dictionary of Modern English Usage. 2d ed. Fowler, H. W. Oxford, Clarendon Press, 1965. AD58. W119.

- A Dictionary of New English, 1963-1972.** Barnhart, C. L. London, Longman, 1973. AD68.
- Dictionary of Spoken Chinese.** Yale University. Institute of Far Eastern Languages. New Haven, Yale University Press, 1966. AD204. W130.
- Dictionnaire des Mots Sauvages.** Rheims, M. Paris, Larousse, 1969. AD290.
- Dictionnaire Hachette; Langue, Encyclopedie, Noms Propres.** Paris, Hachette, 1980.
- Dictionnaire Mongol-Russe-Francais.** Kowalewski, J. S. Kasan, Imprimerie de l'Universite, 1849. 3 vols.
- Dictionnaire Usuel Illustre.** Paris, Quillet-Flammarion, 1980.
- Encyclopedie du Bon Francais dans l'Usage Contemporain.** Keller, F. Paris, Trevisse, 1972. 3 vols. AD295.
- Everyman's English Pronouncing Dictionary.** 14th ed. Jones, D. London, J. M. Dent, 1977. AD75(new). W117.
- Glossarium Mediae et Infimae Latinitatis.** Du Cange, C. D. F. Niort, L. Favre, 1883-1887. 10 vols. AD496.
- Harrap's Standard German and English Dictionary.** Jones, T. London, G. G. Harrap, 1963+ AD330. W122.
- Japanese Names.** O'Neill, P. G. New York, J. Weatherhill, 1972.
- Langenscheidts Enzyklopadisches Worterbuch der Englischen und Deutschen Sprache.** Springer, O. Berlin, Langenscheidt, 1962-1975. 4 vols. W122.
- Lexis.** Paris; Larousse, 1975. W125.
- Mathew's Chinese-English Dictionary.** Rev. American ed. Mathews, R. H. Cambridge, Mass., Harvard Univ. Press, 1952. AD201. W129.
- Oxford Dictionary of Current Idiomatic English.** Cowie, A. P. London, Oxford University Press, 1975+.
- The Oxford English Dictionary.** Murray, J. A. H. Oxford, Clarendon Press, 1933. 12 vols. AD26. W118.
- Oxford Illustrated Dictionary.** Coulson, J. S. Oxford, Clarendon Press, 1962. AD32. W117(old).
- The Random House Dictionary of the English Language.** Stein, J. New York, Random House, 1966. AD8.
- A Standard Swahili-English Dictionary.** The Inter-Territorial Language Committee for the East African Dependencies. London, Oxford University Press, 1939. W130.
- Svensk-Engelsk Ordbok.** Santesson, R. Stockholm, Esselte Studium, 1976. W123.
- Thai-English Dictionary.** McFarland, G. B. Stanford, Stanford University Press, 1944. AD686.
- Thai-English Student's Dictionary.** Haas, M. R. Stanford, Calif., Stanford University Press, 1964. AD685.
- A Tibetan-English Dictionary.** Jaschke, H. A. London, Routledge & Kegan Paul, 1949. AD694.
- Tresor de la Langue Francaise.** Imbs, P. Paris, Editions du Centre National de la Recherche Scientifique, 1971+ AD267.
- Trubners Deutsches Worterbuch.** Gotze, A. Berlin, Walter de Gruyter, 1939-1957. 8 vols. AD325.
- Tu Dien Anh-Viet.** Vien Ngon Ngu Hoc. Hanoi, Knoa Hoc Xa Hoi, 1959.
- The Universal Dictionary of the English Language.** Wyld, H. C. K. London, Routledge & Kegan Paul, 1952.

引用句辞書

- The Oxford Dictionary of Quotations.** 3d ed. Oxford, Oxford University Press, 1979. BD105(new) W297.

百科事典

- Bol'shaia Sovetskaia Entsiklopediia.** 2e izd. Vvedenskii, B. A. Moskva, Sovetskaia Entsiklopediia, 1959. 51 vols. AC71. W24(old).
- Dictionnaire Universel des Noms Propres Alphabetique et Analogique.** Robert, P. Paris, Societe du Nouveau Littre, Dictionnaire le Robert, 1974. 4 vols. W23.
- Enciclopedia Universal Ilustrada Europeo-Americana.** Madrid, Espasa, 1933. 70 vols. AC82. W23.
- La Grande Encyclopedie.** Paris, Larousse, 1971-1976. 20 vols. AC38. W23.
- Great Soviet Encyclopedia.** Prokhorov, A. M. New York, Macmillan, 1973+ AC73. W24.
- Larousse Trois Volumes en Couleurs.** Paris, Larousse, 1965-1966. 3 vols.
- Meyers Enzyklopadisches Lexikon.** 9. vollig new bearb. Aufl. Mannheim, Bibliographisches Institut, 1971-1979. 25 vols. AC47.
- The New Columbia Encyclopedia.** 4th ed. Harris, W. H. New York, Columbia University Press, 1975. AC6(new). W21.

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

The New Encyclopaedia Britannica. 15th ed. Chicago, Encyclopaedia Britannica, 1974. 30 vols. AC3. W20.

主題専門事典

Ballentine's Law Dictionary, with Pronunciations. 3d ed. Ballentine, J. A. Rochester, N. Y., Lawyers Co-Operative, 1969. CK55.

Cassell's Encyclopaedia of Literature. Steinberg, S. H. London, Cassell, 1953. 2 vols. BD33(old). W296(old).

Cassell's Encyclopaedia of World Literature. Rev. and enl. Steinberg, S. H. London, Cassell, 1973. 3 vols. BD33. W296.

A Chaucer Glossary. Davis, N. Oxford, Clarendon Press, 1979.

The Concise Oxford Dictionary of French Literature. Joyce, M. H. R. Oxford, Clarendon Press, 1976. W312.

Dictionary of American History. Rev. ed. New York, C. Scribner, 1976. 7 vols. DB89(new). W387.

Dictionary of Behavioral Science. Wolman, B. B. New York, Van Nostrand Reinhold, 1973. EH58. W44.

A Dictionary of Christian Biography, Literature, Sects and Doctrines. Smith, W. New York, AMS Press, 1974. 4 vols. BB58.

A Dictionary of Comparative Religion. Brandon, S. G. F. London, Weidenfeld & Nicolson, 1970. BB19. W48.

Dictionary of Italian Literature. Bondanella, P. Westport, Conn., Greenwood Press, 1979.

A Dictionary of Literary Terms. Cuddon, J. A. London, A. Deutsch, 1977. W296.

Dictionary of Sociology. Fairchild, H. P. New York, Philosophical Library, 1944.

Dictionary of the History of Ideas. Wiener, P. P. New York, C. Scribner, 1973. 4 vols. BA50. W20.

A Dictionary of the Social Sciences. Gould, J. New York, Free Press, 1964. CC8a. W59.

Dictionnaire d'Histoire Universelle. Mourre, M. Paris, Editions Universitaires, 1968. 2 vols. DA45.

Encyclopaedia of Papua and New Guinea. Ryan, P. Carlton, Victoria, Melbourne University Press, 1972. 3 vols. DG17. W333.

Encyclopaedia of Superstitions, Floklöre, and the Occult Sciences of the World. Daniels, C. L. M. Detroit, Gale Research, 1971. 3 vols.

The Encyclopedia of Education. Deighton, L. C. New York, Macmillan, 1971. 10 vols. CB87. W97.

The Encyclopedia of Management. Heyel, C. New York, Reinhold, 1963. CH187(old).

The Encyclopedia of Philosophy. Edwards, P. New York, Macmillan & Free Press, 1967. 8 vols. BA54. W41.

Encyclopedia of World Art. New York, McGraw-Hill, 1960-1968. 15 vols. BE50.

Funk & Wagnalls Standard Dictionary of Folklore, Mythology and Legend. Leach, M. New York, Funk and Wagnalls, 1949-1950. 2 vols. CF16(old). W112.

Harvard Dictionary of Music. 2d ed., rev. and enl. Apel, W. Cambridge, Mass., Belknap Press of Harvard University Press, 1969. BH94. W279.

The International Cyclopaedia of Music and Musicians. 10th ed. Thompson, O. New York, Dodd, Mead, 1975. BH91(new). W279.

The International Encyclopedia of Higher Education. Knowles, A. S. San Francisco, Jossey-Bass, 1977. 10 vols. W100.

International Encyclopedia of the Social Sciences. Sills, D. L. New York, Macmillan & Free Press, 1968. 17 vols. CA44. W59.

The Interpreter's Dictionary of the Bible. Buttrick, G. A. New York, Abingdon Press, 1962. 4 vols. BB159a. W49.

Kabuki Encyclopedia. Leiter, S. L. Westport, Conn., Greenwood Press, 1979.

Der Kleine Pauly. Pauly, A. F. von. Stuttgart, A. Druckenmüller, 1964-1975. 5 vols. DA94.

Die Musik in Geschichte und Gegenwart. Blume, F. Kassel, Barenreiter, 1949-1968. 14 vols. BH85. W279.

The New Grove Dictionary of Music and Musicians. Sadie, S. London, Macmillan, 1980. 20 vols. BH78(new). W279(new).

The Oxford Companion to American Literature. 4th ed., rev. and enl. Hart, J. D. New York, Oxford Univ. Press, 1965. BD289. W309.

The Oxford Literary Guide to the British Isles. Eagle, D. Oxford, Clarendon Press, 1977. W307.

The Princeton Encyclopedia of Classical Sites. Stillwell, R. Princeton, N. J., Princeton University Press, 1976. W361.

- The Reader's Encyclopedia of American Literature.** Herzberg, M. J. New York, T. Y. Crowell, 1962. BD290.
- The Reader's Encyclopedia of Shakespeare.** Campbell, O. J. New York, Crowell, 1966. BD549. W306.
- The Reader's Encyclopedia of World Drama.** Gassner, J. New York, T. Y. Crowell, 1969. BG32.
- A Russian-English Dictionary of Social Science Terms.** Smith, R. E. F. London, Butterworths, 1962. CA46.
- World Dictionary of Awards and Prizes.** London, Europa, 1979. W356.
- Yesterday and Today.** Hochman, S. New York, McGraw-Hill, 1979.

便覽

- Encyclopedic Dictionary of the Sciences of Language.** Ducrot, O. Baltimore, Johns Hopkins University Press, 1979.
- A Handbook of Korea.** Kim, Young-Kwon. Seoul, Korean Overseas Information Service, Ministry of Culture and Information, 1978.
- Information USSR.** Maxwell, R. Oxford, Pergamon Press, 1962. DC381.
- World Survey of Education.** Paris, Unesco, 1955-1971. CB107.

年鑑

- The Americana Annual.** Canada, Grolier, 1923+ AC11. W21.
- The Bowker Annual of Library and Book Trade Information.** New York, R. R. Bowker, 1962+ AB118. W12.
- Britannica Book of the Year.** Chicago, Encyclopaedia Britannica, 1938+ AC12. W20
- China Yearbook.** 1958/59-. Taipei, China Pub., 1958+ CG106. W327.
- The Statesman's Year-Book.** London, Macmillan, 1864+ CG45. W319.
- Yearbook of the United Nations.** New York, United Nations. Office of Public Information, 1947+ CK251.

年表

- Encyclopedia of American History.** Bicentennial ed. Morris, R. B. New York, Harper & Row, 1976. DB95(new). W387.
- The People's Chronology.** Trager, J. New York, Holt, Rinehart and Winston, 1979.

統計資料

- Statistical Abstract of the United States.** 1878-. Washington, D. C., U. S. Govt. Print. Off., 1879+ CG69. W66.

地名事典

- The Columbia Lippincott Gazetteer of the World.** Seltzer, L. E. New York, Columbia University Press, 1962. CL56. W335.

地圖

- A Historical Atlas of South Asia.** Schwartzberg, J. E. Chicago, University of Chicago Press, 1978. W383.
- The Times Atlas of China.** Geelan, P. J. M. London, Times Books, 1974. W339.
- The Times Atlas of the World.** 6th ed. London, Bartholomew (John) & Son, 1980. CL201(new) W338(new)

人名事典

- American Authors, 1600-1900.** Kunitz, S. J. New York, H. W. Wilson, 1955. BD299.
- Biographic Dictionary of Chinese Communism, 1921-1965.** Klein, D. W. Cambridge, Mass., Harvard University Press, 1971. 2 vols.
- Biographical Dictionary of Japanese Literature.** Hisamatsu, Sen'ichi. Tokyo, Kodansha International, 1976. W318.

大学図書館におけるレファレンス・コレクションの比較分析

- Biographical Dictionary of Republican China.** Boorman, H. L. New York, Columbia University Press, 1967-1979. 5 vols. AJ118. W349.
- British Writers.** Scott-Kilvert, I. New York, C. Scribner, 1979+.
- Current Biography Yearbook.** New York, H. W. Wilson, 1940+ AJ34. W345.
- Dictionary of American Biography.** Johnson, A. New York, C. Scribner, 1928-1937. 21 vols. AJ41. W350.
- Dictionary of Canadian Biography.** Toronto, University of Toronto Press, 1966+ AJ101. W350.
- The Dictionary of National Biography.** Stephen, Sir L. London, Smith, Elder, 1908-1909. 22 vols. AJ165. W346.
- Dictionnaire Biographique des Auteurs de Tous les Temps et de Tous les Pays.** Laffont, B. Paris, SEDE, 1958. 2 vols. BD84.
- Dictionnaire de Biographie Francaise.** Balteau, J. Paris, Letouzey et Ane, 1933+ AJ146. W348.
- European Authors, 1000-1900.** Kunitz, S. J. New York, H. W. Wilson, 1967. BD88. W299.
- Greek and Latin Authors, 800 B. C. -A. D. 1000.** Grant, M. New York, H. W. Wilson, 1980.
- The International Who's Who.** 1935-. London, Europa Publications, 1935+ AJ35. W345.
- Neue Deutsche Biographie.** Der Historischen Kommission bei der Byerlischen Akademie der Wissenschaften. Berlin, Duncker & Humblot, 1952+ AJ158. W348.
- The New Century Cyclopedia of Names.** Barnhart, C. L. New York, Appleton-Century-Crofts, 1954. 3 vols. AJ24. W344.
- Obituaries from the Times, 1961-1970.** Roberts, F. C. Reading, Eng., Newspaper Archive Developments, 1975. W346.
- Obituaries from the Times, 1971-1975.** Roberts, F. C. Reading, Eng., Newspaper Archive Developments, 1978. W346.
- The Oxford Dictionary of Saints.** Farmer, D. H. Oxford, Clarendon Press, 1978. W51.
- Twentieth Century Authors.** Kunitz, S. J. New York, H. W. Wilson, 1950. BD89. W299.
- Twentieth-Century Children's Writers.** Kirkpatrick, D. L. London, Macmillan, 1978. W18.
- Wer Ist Wer?.** Frankfurt am Main, Socierats-Verlag, 1905+ AJ161. W348.
- Who Was Who in America.** Chicago, Ill., Marquis Who's Who, 1943+ AJ52. W351.
- Who's Who.** London, A. & C. Black, 1849+ AJ178. W347.
- Who's Who in American Politics.** New York, R. R. Bowker, 1967+ CJ108.
- Who's Who in China.** 2d ed. Shanghai, The China Weekly Review, 1920. AJ123.
- Who's Who in China.** 3d ed. Shanghai, The China Weekly Review, 1926. AJ123.
- Who's Who in China.** 4th ed. Shanghai, The China Weekly Review, 1931. AJ123.
- Who's Who in China.** 5th ed. Shanghai, The China Weekly Review, 1936. AJ123.
- Who's Who in China.** 6th ed. Shanghai, The China Weekly Review, 1950. AJ123.
- Who's Who in France.** 1953/54-. Paris, Jacques Lafitte, 1953+ AJ152. W348.
- Who's Who in Switzerland, Including the Principality of Liechtenstein.** 1950/51-. Geneva, Nagel, 1952+ AJ286.
- Who's Who in the Arab World.** 1965/66-. Beirut, Publitec Publications, 1965+ AJ237. W349.
- Who's Who in the People's Republic of China.** Bartke, W. Brighton, Sussex, Harvester Press, 1981.
- Who's Who in the Socialist Countries.** Lewytzyj, B. New York, K. G. Saur, 1978. W346.
- World Authors, 1950-1970.** Wakeman, J. New York, H. W. Wilson, 1975. W299.
- World Authors, 1970-1975.** Wakeman, J. New York, H. W. Wilson, 1980. W299(new).

機関名鑑

- American Universities and Colleges.** 11th ed. Washington, D. C., American Council on Education, 1973. CB139. W102.
- International Handbook of Universities, and Other Institutions of Higher Education.** London, Macmillan, 1959+ CB127. W101.
- Minerva; Jahrbuch der Gelehrten Welt.** Berlin, De Gruyter, 1891+ CB128.
- Study Abroad, International Guide.** 1948-. Paris, United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, 1948+ CB200. W100.
- World List of Universities / Liste Mondiale des Universites.** Paris, International Association of Universities, 1973. W101.
- The World of Learning.** 1947-. London, Europa Publications, 1947+ CB132. W101.
- Yearbook of International Organizations.** 1948-. Brussels, Union of International Associations, 1948+ CK214. W31.